

授業科目名 (英訳)	基盤有機化学概論(創薬科学概論) <Introduction to Basic Organic Chemistry (Introduction to Physical and Organic Chemistry)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・竹本佳司、化学研究所教授・川端猛夫、准教授・大野浩章、准教授・山田健一、准教授・高須清誠、准教授・伊藤美千穂、化学研究所准教授・古田 巧			
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
<p>修士課程において薬品創製化学を専攻する学生に対する導入講義。          薬品創製化学の基本となる有機化学、合成化学、医薬品化学、天然物化学、生薬学などの分野に関して、医薬品創製の基礎となる研究の背景を紹介し、基礎的な知識の習得と研究活動の基盤の確立をめざす。また、創薬化学に関する最新のトピックスについても、各分野の教員や、必要に応じて製薬企業などから非常勤講師を招いて講義を行う。</p>									
【授業計画と内容】									
第1回 有機化学の基本概念の概要 第2回 有機化学の基本概念の詳細解説 第3回 有機化合物の反応と合成の概要 第4回 有機化合物の反応と合成の詳細解説 第5回 漢方薬・生薬に関する最近の話題の概要 第6回 漢方薬・生薬に関する最近の話題の詳細解説 第7回 キラルテクノロジーの概要 第8回 キラルテクノロジーの詳細解説 第9回 グリーンケミストリーの概要 第10回 グリーンケミストリーの詳細解説 第11回 創薬研究におけるプロセス化学の概要 第12回 創薬研究におけるプロセス化学の詳細解説 第13回 企業における有機化学領域の研究の現状と展望その1 第14回 企業における有機化学領域の研究の現状と展望その2 第15回 総合討論									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
講義への出席状況、講義内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
【教科書】									
必要に応じてプリントを配布する。									
【参考書等】									
講義内容に応じて指定する場合がある。									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー: 基盤有機化学概論の講義終了後(他の時間でも予約すれば可) 場所: 薬学研究科本館4階竹本教授室 (対応者: 竹本佳司 内線4528)									
コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は創薬科学概論となり、創薬科学専攻の学生には必須の講義内容です。									

授業科目名 (英訳)		基盤物理化学概論 <Introduction to Basic Physical Chemistry>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・加藤博章、教授・佐治英郎、教授・松崎勝巳、准教授・中津亨、准教授・中野実、准教授・星野大、准教授・小野正博、助教・矢野義明、助教・天満敬 助教・山口知宏		
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水2	授業形態	講義	
〔授業の概要・目的〕										
<p>(目的) 修士課程において物理系薬学を専攻する学生に対する導入講義。物理系薬学の基本となる熱力学、構造生物学、速度論などの理論化学に関して、基礎的な知識の習得をめざす。</p> <p>(概要) 物理系薬学の基本となる分光光学、熱力学、構造生物学、速度論などの理論化学に関して、advancedな理論、測定法の原理と応用等について講述する。</p>										
〔授業計画と内容〕										
<p>第1回 導入講義  第2回～第5回 最新の分光光学の原理と応用  第6回～第8回 最新の構造生物学の原理と手法および応用例  第9回～第11回 最新の熱力学データ収集・解析法とその応用  第12回～第14回 最新の生体分析化学の原理と応用  第15回 補講と総合討論</p>										
〔履修要件〕										
なし										
〔成績評価の方法・基準〕										
講義への出席状況、課題に対するレポートなどを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
必要に応じてプリントを配布する。										
〔参考書等〕										
講義内容に応じて指定する場合がある。										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科総合研究棟3階松崎教授室 (対応者: 松崎勝巳 内線4521)										

授業科目名 (英訳)	基盤生物化学概論(生命薬科学概論) <Introduction to Basic Biological Chemistry (Introduction to Life Sciences)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・中山和久、教授・伊藤信行、教授・竹島浩、生命科学研究科教授・根岸学、生命科学研究科教授・小堤保則、准教授・渡部好彦、講師・三宅歩、化学研究所教授・二本史朗			
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火2	授業形態	講義
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的)修士課程において生物化学を専攻する学生に対する導入講義。生物化学の基本となる生化学、分子生物学、細胞生物学、生理学、微生物学などの分野に関して、基礎的な知識の習得をめざす。</p> <p>(概要)生物化学の基本となる生化学、分子生物学、細胞生物学、生理学、微生物学などの分野の概要に関して、各分野の教員や、必要に応じて製薬企業などからの非常勤講師が講義を行う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>第1回 大学院における生物化学領域の研究の現状  第2回 大学院における生物化学領域の研究の将来像  第3回 薬学研究における生物化学の位置づけの概要  第4回 薬学研究における生物化学の位置づけの詳細解説  第5回 生体分子認識学分野の研究概要  第6回 分子微生物学分野の研究概要  第7回 遺伝子薬学分野の研究概要  第8回 生理活性制御分野の研究概要  第9回 生体情報制御分野の研究概要  第10回 神経機能制御分野の研究概要  第11回 生体機能化学分野の研究概要  第12回 製薬企業における生物化学領域の研究の現状と展望その1  第13回 製薬企業における生物化学領域の研究の現状と展望その2  第14回 製薬企業における生物化学領域の研究の現状と展望その3  第15回 総合討論</p>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
講義への出席状況、講義内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
講義内容に応じて指定する場合がある。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー:基盤生物化学概論の講義終了後(他の時間でも予約すれば可)  場所:薬学研究科総合研究棟4階生体情報制御学分野教授室教室 (対応者:中山和久 内線4527)</p> <p>コメント:創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は生命薬科学概論となり、生命薬科学専攻の学生には必須の講義内容です。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤医療薬科学概論(医療薬科学概論) <Introduction to Basic Pharmacy and Biomedical Sciences (Introduction to Pharmacy and Biomedical Sciences)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・橋田充、教授・赤池昭紀、 教授・金子周司、教授・高倉喜信、 東京医科歯科大学 医学部附属病院 教授・薬剤部長・安原真人			
配当学年	1回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
<p>(目的) 修士課程における医療薬科学に関する導入講義。薬学研究科における医療薬科学系の各分野での研究概要と医薬品開発や医療現場の現状を把握する。</p> <p>(概要) 医薬品の作用を支配するプロセス、すなわち、病態、薬物の体内動態や薬理効果発現の機構とこれらを制御する要因および新薬開発の現状と医療上での問題点などを概説し、医薬品の開発と適正な薬物治療の実現を目的とした基礎研究に必要な知識を習得する。</p>									
【授業計画と内容】									
第1回～第2回 大学院における薬学の研究と教育の現状 第3回～第4回 薬学における医療薬科学の位置付け 第5回 薬品動態制御学分野の研究概要 第6回 薬品作用解析学分野の研究概要 第7回 生体機能解析学分野の研究概要 第8回 病態情報薬学分野の研究概要 第9回 病院薬学、臨床研究の現状その1 第10回 病院薬学、臨床研究の現状その2 第11回 医療現場におけるトピック、問題点の概説 第12回 医薬品開発のプロセスその1 第13回 医薬品開発のプロセスその2 第14回～第15回 補講と総合討論									
【履修要件】									
なし									
【成績評価の方法・基準】									
講義への出席状況、講義内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
【教科書】									
必要に応じてプリントを配布する。									
【参考書等】									
講義内容に応じて指定する場合がある。									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー: 医療薬科学概論の講義終了後(他の時間でも予約すれば可) 場所: 薬学研究科総合研究棟2階病態情報薬学分野教授室 (対応者: 高倉喜信 内線4615)									
コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は医療薬科学概論となり、医療薬科学専攻の学生には必須の講義内容です。									

授業科目名 (英訳)	基盤有機化学実験技術 <Basic Laboratory Techniques in Organic Chemistry>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・竹本佳司、化学研究所教授・川端猛夫、准教授・大野浩章、准教授・山田健一、准教授・高須清誠、准教授・伊藤美千穂、化学研究所 准教授・古田 巧			
配当学年	1回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限		授業形態	講義
〔授業の概要・目的〕									
修士課程において薬品創製化学を専攻する学生に対する実験を始める直前および半年のあいだに集中して行う講義。薬品創製化学実験の基本となる有機化学、医薬品化学、天然物化学、生薬学などに関して分析機器の測定法と有機・無機化合物の同定法、有機・無機化合物の取り扱いや精製法に関する実験技術を講義する。また、安全に実験を行うための基本的な知識と実験操作の技術を習得するため、講義と実習を組み合わせ教育を行う。									
〔授業計画と内容〕									
<p>第1回～第7回 薬品創製化学領域の実験技術の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化合物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・微生物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・動物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・組換えDNAの実験技術と安全な取扱い</li> <li>・放射性同位元素の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・インターネットやデータベースの活用技術</li> <li>・廃棄物や排水の処理法と環境配慮</li> </ul> <p>第8回 安全に実験を行うための心構えについて</p> <p>第9回 有機化合物の基本的な取り扱いについて</p> <p>第10回 無機化合物の基本的な取り扱いについて</p> <p>第11回 有機化合物の精製法と廃棄処理方法について</p> <p>第12回 無機化合物の精製法と廃棄処理方法について</p> <p>第13回 NMRの測定法と化合物同定法の講義</p> <p>第14回 IRの測定法と化合物同定法の講義</p> <p>第15回 Massの測定法と化合物同定法の講義</p>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
講義や実習への出席状況、講義や実験内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
講義内容に応じて指定する場合がある。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科本館4階竹本教授室 (対応者: 竹本佳司 内線4528)  薬学研究科本館4階薬品合成化学分野研究室 (対応者: 山田健一准教授 内線4573)  薬学研究科別館1階 (対応者: 伊藤美千穂准教授 内線4506)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は創薬科学実験技術、生命薬科学実験技術、医療薬科学実験技術となり、所属する専攻の科目のみを履修でき、各専攻に必須の講義内容です。</p>									

授業科目名 (英訳)		基盤物理化学実験技術 <Basic Laboratory Techniques in Physical Chemistry>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・加藤博章、教授・佐治英郎、教授・松崎勝巳、准教授・中津亨、准教授・中野実、准教授・星野大、准教授・小野正博		
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	集中	授業形態	講義	
【授業の概要・目的】										
<p>(目的) 物理系薬学実験の基本となる熱力学、構造生物学、速度論などの分野に関して、研究遂行に必要な基盤実験技術を身につけるとともに、安全な実験操作を行うための知識と技術の習得をめざす。</p> <p>(概要) 生物化学実験の基本となる構造生物学、生体コロイド科学、生物物理化学、臨床分析化学、分光光学、界面科学、分子構造学、放射化学などに関して、講義と実習を組み合わせ教育を行う。</p>										
【授業計画と内容】										
第1回 導入講義 第2回 化合物の取扱技術と安全な取扱い 第3回 微生物の取扱技術と安全な取扱い 第4回 動物の取扱技術と安全な取扱い 第5回 組換えDNAの実験技術と安全な取扱い 第6回 放射性同位元素の取扱技術と安全な取扱い 第7回 X線の安全な取扱い 第8回 インターネットやデータベースの活用技術 第9回 廃棄物や排水の処理法と環境配慮 第10回 構造生物学・分子構造学実験技術の概要 第11回 生体コロイド科学・界面科学実験技術の概要 第12回 生物物理化学実験技術の概要 第13回 臨床分析化学・放射化学実験技術の概要 第14回 分光光学実験技術の概要 第15回 補講と総合討論										
【履修要件】										
なし										
【成績評価の方法・基準】										
講義や実習への出席状況、課題に対するレポートなどを総合的に評価する。										
【教科書】										
必要に応じてプリントを配布する。										
【参考書等】										
講義内容に応じて指定する場合がある。										
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】										
オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科総合研究棟3階松崎教授室 (対応者: 松崎勝巳 内線4521)										

授業科目名 (英訳)	基盤生物化学実験技術(生命薬科学実験技術) <Basic Laboratory Techniques in Biological Chemistry (Basic Laboratory Techniques in Life Sciences)>					担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・中山和久、教授・伊藤信行、教授・竹島浩、生命科学研究科教授・根岸学、生命科学研究科教授・小堤保則、准教授・渡部好彦、講師・三宅歩、化学研究所教授・二本史朗			
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	集中	授業形態	講義	
〔授業の概要・目的〕										
<p>(目的)生物化学実験の基本となる生化学、分子生物学、細胞生物学、生理学、微生物学などの分野に関して、基本的な実験技術を身につけるとともに、安全な実験操作を行うための知識と技術の習得をめざす。</p> <p>(概要)生物化学実験の基本となる生化学、分子生物学、細胞生物学、生理学、微生物学などに関して、講義と実習を組み合わせ教育を行う。</p>										
〔授業計画と内容〕										
<p>第1回～第7回 生物化学領域の実験技術の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化合物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・微生物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・動物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・組換えDNAの実験技術と安全な取扱い</li> <li>・放射性同位元素の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・インターネットやデータベースの活用技術</li> <li>・廃棄物や排水の処理法と環境配慮</li> </ul> <p>第8回 生体分子認識学分野の実験技術の概要  第9回 分子微生物学分野の実験技術の概要  第10回 遺伝子薬学分野の実験技術の概要  第11回 生理活性制御分野の実験技術の概要  第12回 生体情報制御分野の実験技術の概要  第13回 神経機能制御分野の実験技術の概要  第14回 生体機能化学分野の実験技術の概要  第15回 総合討論</p>										
〔履修要件〕										
なし										
〔成績評価の方法・基準〕										
講義や実習への出席状況、講義や実験内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
必要に応じてプリントを配布する。										
〔参考書等〕										
講義内容に応じて指定する場合がある。										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
<p>オフィスアワー:基盤生物化学実験技術の講義終了後(他の時間でも予約すれば可)  場所:薬学研究科総合研究棟4階生体情報制御学分野教授室 (対応者:中山和久 内線4527)</p> <p>コメント:創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は創薬科学実験技術、生命薬科学実験技術、医療薬科学実験技術となり、所属する専攻の科目のみを履修でき、各専攻に必須の講義内容です。</p>										

授業科目名 (英訳)	基盤医療薬科学実験技術(医療薬科学実験技術) <Basic Laboratory Techniques in Pharmacy and Biomedical Sciences (Experimental Technologies in Pharmacy and Biomedical Sciences)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・橋田充、教授・赤池昭紀、教授・金子 周司、教授・高倉喜信、准教授・山下富義、 准教授・久米利明、准教授・中川貴之、准教 授・西川元也、講師・川上茂			
配当学年	1回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	集中	授業形態	講義
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的) 修士課程において、薬剤学、薬理学を専攻する学生に対する講義と実験。薬剤系、薬理系の各分野において研究を実施する際に必要な基本的実験技術について学ぶ。</p> <p>(概要) 薬理効果の評価法、薬物体内動態の評価法など薬剤学、薬理学に関する研究を実施するにあたり身につけておくことが望ましい基本的な実験技術を講義と実習を通じて習得する。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>第1回～第6回 医療薬科学領域の実験技術の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化合物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・動物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・放射性同位元素の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・廃棄物や排水の処理法と環境配慮</li> <li>・微生物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・組換えDNAの実験技術と安全な取扱い</li> <li>・インターネットやデータベースの活用技術</li> </ul> <p>第7回 医薬品の吸収、分布、代謝、排泄の評価に利用される動物実験手技  第8回 医薬品の吸収、分布、代謝、排泄の機構解析および定量的評価法  第9回 薬物の動態制御技術に利用されるDDSの調製手技  第10回 薬物の動態制御技術の評価に用いられる動物実験・培養細胞系に関する実験手技  第11回 神経細胞死の解析と薬効評価研究で用いられる実験手技  第12回 培養細胞実験、切片培養実験の具体例と実験方法  第13回 イオンチャネル、受容体機能解析のための電気生理学的実験手技  第14回 分子生物学的実験操作の基本と応用  第15回 補講と総合討論</p>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
講義や実習への出席状況、講義や実験内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
講義内容に応じて指定する場合がある。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 基盤医療薬科学実験技術の講義終了後(他の時間でも予約すれば可)  場所: 薬学研究科総合研究棟2階病態情報薬学分野教授室 (対応者: 高倉喜信 内線4615)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は創薬科学実験技術、生命薬科学実験技術、医療薬科学実験技術となり、所属する専攻の科目のみを履修でき、各専攻に必須の講義内容です。</p>									



授業科目名 (英訳)		基盤有機化学特論Ⅱ(創薬科学特論Ⅳ) <Advanced Basic Organic Chemistry II (Advanced Physical and Organic Chemistry IV)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		准教授・大野浩章、准教授・伊藤美千穂		
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木1	授業形態	講義	
【授業の概要・目的】										
<p>(目的)有機化学、合成化学、有機金属化学、触媒化学、天然物化学、生薬学に関する最新のトピックスを紹介し、学部教育から最先端研究への橋渡しをする。本講義により、薬品創製化学分野の最近の進歩を理解し、創薬研究に応用するための知識と理論を習得する。</p> <p>(概要)医薬品合成の基礎となる種々の有機合成反応、特に有機金属試薬が関与する反応について、その特異性と応用を講義する。また、天然物化学や薬用植物の有効成分を利用した創薬研究への展開に関して最近の進歩を中心に講義する。</p>										
【授業計画と内容】										
第1回～第3回 有機金属化学の基礎と応用 第4回～第6回 天然物合成化学 第7回～第9回 生体関連分子の化学修飾 第10回～第12回 薬用植物資源学 第13回 有機化学に関する最新のトピックス紹介 第14回 補講 第15回 試験										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
講義への出席状況、授業ノート、講義中に課すレポートなどを総合的に評価する。										
【教科書】										
必要に応じてプリントを配布する。										
【参考書等】										
講義内容に応じて指定する場合がある。										
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】										
・事前 tel/mail (大野; 内4571, hohno@pharm.kyoto-u.ac.jp)										

授業科目名 (英訳)		基盤物理化学特論 I (創薬科学特論 V) <Advanced Basic Physical Chemistry I (Advanced Physical and Organic Chemistry V)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・加藤博章、佐治英郎、松崎勝巳、准教授・小野正博、中津 亨、中野実、星野大、助教・天満敬、矢野義明、山口知宏、エネル ギー科学研究科教授・八尾健、工学研究科教授・白川昌宏、大阪 大学薬学研究科教授・宇野公之、大阪大学蛋白質研究所教授・高 木淳一、京都薬科大学教授・安井裕之、(独)産業技術総合研究所 主任研究員・須丸公雄		
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金2	授業形態	講義	
〔授業の概要・目的〕										
<p>(目的)最新の研究成果を基に、物理化学を創薬研究に活用する方法を学習する。  (概要)構造生物学、生体コロイド科学、生物物理化学、分子イメージング、生物無機化学など物  理系薬学領域における最新の研究成果を紹介する。</p>										
〔授業計画と内容〕										
第1回 創薬研究における物理化学概論1 第2回～第5回 生物物理化学領域における最新の研究成果 第6回～第8回 構造生物学領域に関する最新の研究成果 第9回～第11回 生体コロイド科学領域における最新の研究成果 第12回～第14回 生体分子イメージング、生物無機化学領域における最新の研究成果 第15回 補講と総合討論										
〔履修要件〕										
なし										
〔成績評価の方法・基準〕										
講義への出席状況、課題に対するレポートなどを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
必要に応じてプリントを配布する。										
〔参考書等〕										
講義内容に応じて指定する場合がある。										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
<p>オフィスアワー:基盤物理化学特論Iの講義終了後(他の時間でも予約すれば可)  場所:薬学研究科本館3階A303 (対応者:中野実 内線4565)</p> <p>コメント:創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は創薬科学特論Vとなります。</p>										

授業科目名 (英訳)		創薬科学特論Ⅲ <Advanced Physical and Organic Chemistry III>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・竹本佳司、化学研究所教授・川端猛夫、准教授・山田健一、准教授・高須清誠、化学研究所准教授・古田巧、工学研究科教授・松原誠二郎、化学研究所教授・山子茂		
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木1	授業形態	講義	
〔授業の概要・目的〕										
<p>(目的) 修士課程において有機化学を専攻する学生に対する発展講義。生理活性物質や医用有機材料の創製において重要な有機化合物の構造・物性・反応・合成に関する、基礎～発展的な知識の習得をめざす。</p> <p>(概要) 種々の素反応の選択性発現因子、標的分子を立体選択的に合成するために必要な理論と最近の実践的応用例に関して、各分野の教員や、他研究科の非常勤講師が講義を行う。</p>										
〔授業計画と内容〕										
<p>第1回 環化付加反応の化学(高須)</p> <p>第2回 環状分子構築における選択性(高須)</p> <p>第3回 生理活性アルカロイドの逆合成解析(高須)</p> <p>第4回 生理活性アルカロイドの全合成の実際(高須)</p> <p>第5回 ラジカルの安定性と反応性(山田)</p> <p>第6回 ラジカル連続反応と選択性(山田)</p> <p>第7回 分子の立体配座と反応の立体制御(1)(山田)</p> <p>第8回 分子の立体配座と反応の立体制御(2)(山田)</p> <p>第9回 動的不斉エノラートの化学(川端)</p> <p>第10回 分子間相互作用の基礎と応用(古田)</p> <p>第11回 重水素化は新しい医薬品を創れるか(松原)</p> <p>第12回 有機合成を背景とした高分子材料の精密設計(山子)</p>										
〔履修要件〕										
なし										
〔成績評価の方法・基準〕										
講義への出席状況、講義内容をもとに課すレポートなどを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
必要に応じてプリントを配布する。										
〔参考書等〕										
講義内容に応じて指定する場合がある。										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
<p>オフィスアワー: 本講義の講義終了後(他の時間でも予約すれば可)</p> <p>場所: 薬学研究科本館4階薬品分子化学分野A401 (対応者: 高須清誠 内線4610)</p> <p>コメント: 薬品合成化学、薬品分子化学、精密有機合成化学に関連した最新の研究動向についても紹介します。有機化学の醍醐味を味わってください。</p>										

授業科目名 (英訳)		バイオインフォマティクス概論 <Advanced Bioinformatics>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・中山和久、化学研究所教授・金久實、 化学研究所准教授・五斗進		
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火4	授業形態	講義	
【授業の概要・目的】										
<p>(目的)バイオインフォマティクスの概念と方法論を概説し、創薬科学への応用を修得する。  (概要)日本バイオインフォマティクス学会策定の大学院教育カリキュラムに基づき、配列解析、タンパク質立体構造解析、ゲノム解析、ネットワーク解析、ケモインフォマティクスなどを、創薬科学の観点から概説する。</p>										
【授業計画と内容】										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 創薬科学とバイオインフォマティクス</li> <li>2. 配列解析・比較ゲノム解析</li> <li>3. タンパク質立体構造解析</li> <li>4. 転写ネットワーク解析</li> <li>5. 代謝ネットワーク解析</li> <li>6. ケモインフォマティクス</li> <li>7. 糖鎖インフォマティクス</li> <li>8. 天然物インフォマティクス</li> <li>9. 創薬分子設計</li> <li>10. ゲノム創薬</li> </ol> <p>1課題あたり1～2週の授業をする予定</p>										
【履修要件】										
【成績評価の方法・基準】										
レポート、出席により評価する。										
【教科書】										
用意した講義プリントを各講義のはじめに配布する。										
【参考書等】										
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】										
<p>オフィスアワー: バイオインフォマティクス概論の講義終了後(他の時間でも予約すれば可)  場所: 宇治キャンパス総合研究実験棟CB219 統合ゲノミクス分野教授室(対応者: 金久 實 内線16-3270)</p>										

授業科目名 (英訳)	基盤生物化学特論Ⅱ(生命薬科学特論Ⅲ) <Advanced Basic Biological Chemistry Ⅱ (Advanced Life Sciences Ⅲ)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・伊藤信行、化学研究所教授・二木史朗、 准教授・渡部好彦、講師・三宅 歩			
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	前期		火1	授業形態	講義
<p>(目的)生体機能、形態形成の分子機構とその制御や遺伝子・ゲノム科学の進展について理解を深めるために、最近の研究成果を紹介し討論を行う。</p> <p>(概要)生体機能、形態形成の分子機構とその制御や遺伝子・ゲノム科学の進展に関する最先端の研究成果について講義を行ったのちに討論を行う。必要に応じて研究科外の非常勤講師が講義を行う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>授業計画</p> <p>第1回～第2回 遺伝子薬学分野の最近の研究成果</p> <p>第3回～第4回 形態形成の分子機構に関する最近の研究成果</p> <p>第5回 遺伝子・ゲノム科学の進展に関する最近の研究成果</p> <p>第6回～第8回 生体機能化学分野の最近の研究成果</p> <p>第9回～第10回 生体機能の分子機構に関する最近の研究成果</p> <p>第11回～第15回 ウィルス・分子微生物学分野の最近の研究成果</p>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
講義への出席状況、講義内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
講義内容に応じて指定する場合がある。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 基盤生物化学概論の講義終了後(他の時間でも予約すれば可) 場所: 薬学研究科本館2階遺伝子薬学分野教授室 (対応者: 伊藤信行 内線4540)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は生命薬科学特論Ⅲとなり、生命薬科学専攻の学生には必須の講義内容です。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤医療薬科学特論 I (医療薬科学特論 I) <Advanced Basic Pharmacy and Biomedical Sciences I (Advanced Pharmacy and Biomedical Sciences I)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・橋田充、教授・高倉喜信、教授・未定、 准教授・山下富義、准教授・西川元也、附属 病院薬剤部准教授・桂敏也、講師・川上茂、 武田薬品工業(株)リサーチマネージャー・高 田重行			
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
<p>(目的) 薬剤学、薬物動態学、製剤学、物理薬剤学、医療薬剤学領域の研究及びこれらの関連領域分野における研究に関して基本的な理解と最新の知識を習得する。</p> <p>(概要) 薬物動態、製剤特性など薬物治療の効果発現を支配する諸因子の解析やドラッグデリバリーシステムに関する最近の研究成果を紹介する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回～第2回 薬物動態学研究、製剤学研究の基礎と応用</p> <p>第3回～第4回 トランスポータの分子生物学と薬物動態</p> <p>第5回～第6回 薬物動態的解析法における最近の進歩</p> <p>第7回～第8回 薬物動態予測のための情報科学的アプローチ</p> <p>第9回～第10回 ドラッグデリバリーシステムにおける最新技術</p> <p>第11回～第12回 タンパク質・遺伝子の細胞選択的デリバリー</p> <p>第13回～第14回 ドラッグデリバリーシステムと遺伝子治療</p> <p>第15回 補講と総合討論</p>									
【履修要件】									
なし									
【成績評価の方法・基準】									
講義への出席状況、講義内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
【教科書】									
必要に応じてプリントを配布する。									
【参考書等】									
講義内容に応じて指定する場合がある。									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
<p>オフィスアワー: 基盤医療薬科学特論 I の講義終了後(他の時間でも予約すれば可)</p> <p>場所: 薬学研究科総合研究棟2階病態情報薬学分野教授室 (対応者: 高倉喜信 内線4615)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は医療薬科学特論 I となり、医療薬科学専攻の学生には必須の講義内容です。</p>									

授業科目名 (英訳)		医療薬科学特論Ⅱ <Advanced Pharmacy and Biomedical SciencesⅡ>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・赤池昭紀、教授・佐治英郎、准教授・久米利明、准教授・小野正博、医学研究科助教・猪原匡史、放射線医学総合研究所理事 長・米倉義晴、大阪市立大学大学院医学研究科教授・森啓、千葉 大学大学院薬学研究院教授・荒野泰、熊本大学大学院医学薬学 研究部教授・香月博志、(株)バクスター研究開発本部長・宗像敬 一		
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水1	授業形態	講義	
〔授業の概要・目的〕										
<p>(目的) 神経性心疾患、循環器疾患、がんなどの諸種疾患における生理、生化学、薬理学的機能の変化、さらに、それらの疾患を対象とするインビボ分析技術および薬物治療について、最近の研究の動向を把握する。</p> <p>(概要) 神経性心疾患、循環器疾患、がんなどの諸種疾患における生理、生化学、薬理学的機能の変化、さらに、それらの疾患を対象とするインビボ分析技術および薬物治療に関して、各分野の教員や、必要に応じて他の大学、研究機関、製薬企業などからの非常勤講師が講義を行う。</p>										
〔授業計画と内容〕										
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中枢神経薬理学研究の基礎と応用</li> <li>○ 中枢神経疾患におけるニューロン死の機序とその保護因子の作用</li> <li>○ 電位依存性カルシウムチャネルの電気生理学的、分子生物学的アプローチ</li> <li>○ 受容体依存性カルシウムチャネルの電気生理学的、分子生物学的アプローチ</li> <li>○ 分子薬理、神経薬理、神経生理分野の研究の動向の紹介</li> <li>○ 病態機能の解析と診断研究の基礎と応用</li> <li>○ 分子イメージング法による生体機能の状態分析</li> <li>○ 分子イメージング法による脳疾患、心疾患、がんなどの病態の仕組みの解明と薬物作用の動的解析</li> <li>○ 選択的生理・薬理活性をひきおこす機能性画像診断・治療薬の創薬研究に関する研究の動向の紹介</li> <li>○ 生体と金属との関わる生物無機化学的研究</li> </ul>										
〔履修要件〕										
なし										
〔成績評価の方法・基準〕										
講義への出席状況、講義内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
必要に応じてスライドを用い、プリントを配布する。										
〔参考書等〕										
なし										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
<p>オフィスアワー: 在室の時はいつでも可  場所: 薬学研究科本館1階薬品作用解析学分野教授室(対応者: 赤池昭紀 内線4550)  薬学研究科総合研究棟4階病態機能分析学分野教授室(対応者: 佐治英郎 内線4556)</p>										

授業科目名 (英訳)	基盤薬品創製化学演習 (薬品合成化学演習、薬品分子化学演習、薬品資源学演習、精密有機合成化学演習) < Seminar in Basic Medicinal and Organic Chemistry (Synthetic Medicinal Chemistry Seminar, Organic Chemistry Seminar, Pharmacognosy Seminar)>				担当者氏名 (所属名がない場合は薬学研究科所属)	教授・竹本佳司、准教授・大野浩章、准教授・山田健一、准教授・高須清誠、准教授・伊藤美千穂、助教・塚野千尋																			
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限		授業形態	演習																
〔授業の概要・目的〕																									
<p>ゲノム情報収斂型創薬研究の方法論、薬物標的の発見と医薬品の分子設計の新手法、天然物の全合成と逆合成解析研究、不斉配位子の設計と不斉触媒反応、有機金属試薬を用いた新反応、薬用植物の分子系統学的研究、植物二次代謝の生合成・遺伝子研究に関する最新の知見について最近の文献を収集し、紹介する。さらにそれに基づくプレゼンテーションと討論を通じて、専門的知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p>																									
〔授業計画と内容〕																									
<table border="0"> <tr> <td>第1回～第2回</td> <td>ゲノム情報収斂型創薬研究の方法論に関する最新の知見について紹介し、討論する</td> </tr> <tr> <td>第3回～第4回</td> <td>薬物標的の発見と医薬品の分子設計の新手法に関する最新の知見について紹介し、討論する</td> </tr> <tr> <td>第5回～第6回</td> <td>天然物の全合成と逆合成解析研究に関する最新の知見について紹介し、討論する</td> </tr> <tr> <td>第7回～第8回</td> <td>不斉配位子の設計と不斉触媒反応に関する最新の知見について紹介し、討論する</td> </tr> <tr> <td>第9回～第10回</td> <td>有機金属試薬を用いた新反応に関する最新の知見について紹介し、討論する</td> </tr> <tr> <td>第11回～第12回</td> <td>生体分子の機能発現機構に関する最新の知見について紹介し、討論する</td> </tr> <tr> <td>第13回～第14回</td> <td>薬用植物の分子系統学的研究に関する最新の知見について紹介し、討論する</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>植物二次代謝の生合成・遺伝子研究に関する最新の知見について紹介し、討論する</td> </tr> </table>										第1回～第2回	ゲノム情報収斂型創薬研究の方法論に関する最新の知見について紹介し、討論する	第3回～第4回	薬物標的の発見と医薬品の分子設計の新手法に関する最新の知見について紹介し、討論する	第5回～第6回	天然物の全合成と逆合成解析研究に関する最新の知見について紹介し、討論する	第7回～第8回	不斉配位子の設計と不斉触媒反応に関する最新の知見について紹介し、討論する	第9回～第10回	有機金属試薬を用いた新反応に関する最新の知見について紹介し、討論する	第11回～第12回	生体分子の機能発現機構に関する最新の知見について紹介し、討論する	第13回～第14回	薬用植物の分子系統学的研究に関する最新の知見について紹介し、討論する	第15回	植物二次代謝の生合成・遺伝子研究に関する最新の知見について紹介し、討論する
第1回～第2回	ゲノム情報収斂型創薬研究の方法論に関する最新の知見について紹介し、討論する																								
第3回～第4回	薬物標的の発見と医薬品の分子設計の新手法に関する最新の知見について紹介し、討論する																								
第5回～第6回	天然物の全合成と逆合成解析研究に関する最新の知見について紹介し、討論する																								
第7回～第8回	不斉配位子の設計と不斉触媒反応に関する最新の知見について紹介し、討論する																								
第9回～第10回	有機金属試薬を用いた新反応に関する最新の知見について紹介し、討論する																								
第11回～第12回	生体分子の機能発現機構に関する最新の知見について紹介し、討論する																								
第13回～第14回	薬用植物の分子系統学的研究に関する最新の知見について紹介し、討論する																								
第15回	植物二次代謝の生合成・遺伝子研究に関する最新の知見について紹介し、討論する																								
〔履修要件〕																									
なし																									
〔成績評価の方法・基準〕																									
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論への参加度合いと適切さを総合的に評価する。																									
〔教科書〕																									
必要に応じてプリントを配布する。																									
〔参考書等〕																									
適宜紹介する。																									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕																									
オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科本館4階竹本教授室 (対応者: 竹本佳司 内線4528) 薬学研究科本館4階薬品合成化学分野研究室(対応者: 山田健一准教授 内線4573) 薬学研究科別館1階(対応者: 伊藤美千穂准教授 内線4506)																									
コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は薬品合成化学演習、薬品分子化学演習、薬品資源学演習となり、薬品合成化学分野、薬品分子化学分野、薬品資源学分野の学生には必修の演習科目です。																									



授業科目名 (英訳)		基盤薬品機能統御学演習 (薬品機能解析学演習、構造生物薬学演習) <Seminar in Basic Biophysical Chemistry (Biophysical Chemistry Seminar, Structural Biology Seminar)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・加藤博章、教授・松崎勝巳、准教授・中津亨、准教授・星野大、助教・矢野義明、助教・山口知宏		
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	月3/火3	授業形態	演習	
〔授業の概要・目的〕										
<p>(目的) プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、生物物理化学・構造生物学に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>(概要) 生物物理化学・構造生物学に関する最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。</p>										
〔授業計画と内容〕										
<p>第1回～第2回 抗菌性ペプチドに関連する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説  第3回～第4回 アミロイド形成機構に関連する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説  第5回～第6回 受容体の可視化解析に関連する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説  第7回～第8回 NMRによる生体分子の構造解析に関連する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説  第9回～第10回 ABCトランスポーターに関する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説  第11回～第12回 膜タンパク質の輸送と局在化に関連する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説  第13回～第14回 生物時計に関連する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説  第15回 X線結晶解析による生体分子の構造解析に関する研究についてのプレゼンテーション、およびそれに基づく討論と解説</p>										
〔履修要件〕										
なし										
〔成績評価の方法・基準〕										
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
プリント										
〔参考書等〕										
必要に応じて単行本などを参考にする。										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科総合研究棟3階松崎教授室 (対応者: 松崎勝巳 内線4521)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は薬品機能統御学演習、構造生物薬学演習となります。 薬品機能解析学分野・構造生物薬学分野の学生は必修です。</p>										

授業科目名 (英訳)		基盤薬品製剤設計学演習 (製剤機能解析学演習) <Seminar in Basic Biosurface Chemistry (Biocolloid and Biointerface Science Seminar)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		准教授・中野実	
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	演習
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的)プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、生体界面化学に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>(概要)脂質膜の構造やダイナミクス、膜とタンパク質との相互作用、リポタンパク質の構造、機能、代謝などの生体界面化学に関する最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。プレゼンテーションや討論の方法に関する諸注意事項は、あらかじめ掲示等で周知するとともに、第1回目の演習の際にも説明する。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>第1回～第3回 脂質膜構造研究法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>脂質液晶相や相転移に関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>脂質液晶相や相転移に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>脂質液晶相や相転移に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>第4回～第6回 脂質微粒子研究法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>脂質分散微粒子(リポソーム、エマルション、キューボソーム、ナノディスク等)に関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>脂質分散微粒子(リポソーム、エマルション、キューボソーム、ナノディスク等)に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>脂質分散微粒子(リポソーム、エマルション、キューボソーム、ナノディスク等)に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>第7回～第9回 リポタンパク質研究法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リポタンパク質に関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>リポタンパク質に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>リポタンパク質に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>第10回～第12回 脂質μタンパク質相互作用研究法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>脂質μタンパク質相互作用に関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>脂質μタンパク質相互作用に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>脂質μタンパク質相互作用に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>第13回～第15回 膜脂質ダイナミクス研究法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>膜脂質ダイナミクスに関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>膜脂質ダイナミクスに関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>膜脂質ダイナミクスに関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
必要に応じて科学論文、総説、教科書などを参考にする。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科本館3階A303 (対応者: 中野実 内線4565)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は製剤機能解析学演習となり、製剤機能解析学分野の学生には必修の演習科目です。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤生体分子薬学演習 (生体分子認識学演習、分子微生物学演習) <Basic Molecular Biology Seminar (Biological Chemistry Seminar, Molecular Microbiology Seminar)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・竹島浩、准教授・渡部好彦、助教・山本伸一郎				
	配当学年	1・2回生	単位数	2		開講期	通年	曜時限	月2	授業形態
〔授業の概要・目的〕										
代謝生化学、細胞生理学、免疫科学、ウイルス学、Ca <sup>2+</sup> シグナル伝達に関する最新研究成果を紹介するとともに、その成果に基づく討論を行う。その実践により、生化学や微生物学に関連する基礎生物学の知識に基づき、実験データの取りまとめや解釈の方法を実践的に学習し、研究計画の立案や課題克服に向けた能力の向上を目指す。研究成果の取りまとめ、発表や討論の方法に関する注意事項は、あらかじめ掲示等で周知するとともに、第1回目の演習時に解説する。										
〔授業計画と内容〕										
第1回～第3回 代謝生化学研究法 代謝生化学領域の先端研究における成果の紹介、およびそれに基づく討論と解説 第4回～第6回 細胞生理学研究法 細胞生理学領域の先端研究における成果の紹介、およびそれに基づく討論と解説 第7回～第9回 免疫科学研究法 免疫科学領域の先端研究における成果の紹介、およびそれに基づく討論と解説 第10回～第12回 ウイルス学研究法 ウイルス学領域の先端研究における成果の紹介、およびそれに基づく討論と解説 第13回～第15回 Ca <sup>2+</sup> シグナル伝達研究法 Ca <sup>2+</sup> シグナル伝達領域の先端研究における成果の紹介、およびそれに基づく討論と解説										
〔履修要件〕										
特になし										
〔成績評価の方法・基準〕										
演習への出席状況、成果の紹介や討論の適切さを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
必要に応じてプリントを配布する。										
〔参考書等〕										
標準分子医化学(医学書院)、標準生理学(医学書院)、標準免疫学(医学書院)、標準微生物学(医学書院)										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
オフィスアワー: 基盤生体分子薬学演習終了後。連絡先: 竹島浩(内線4572)、渡部好彦(内線4577) コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は生体分子認識学演習、分子微生物学演習となり、生体分子認識学分野、分子微生物学分野の学生には必修の演習科目です。										

授業科目名 (英訳)		基盤生体機能薬学演習 (生体機能解析学演習、遺伝子薬学演習) <Seminar in Basic Genetic Biochemistry and Basic Molecular Pharmacology (Genetic Biochemistry Seminar and Molecular Pharmacology Seminar)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・伊藤信行、教授・金子周司、准教授・中川貴之、講師・三宅 歩、助教・白川久志		
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	演習	
〔授業の概要・目的〕										
<p>(目的)プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、形態形成の分子機構とその制御や遺伝子・ゲノム科学の進展に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>(概要)形態形成の分子機構とその制御や遺伝子・ゲノム科学の進展、および中枢神経系における膜輸送タンパク質(イオンチャネル・トランスポーター)とそれらの病態生理的役割に関する最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。プレゼンテーションや討論の方法に関する諸注意事項は、あらかじめ掲示等で周知するとともに、第1回目の演習の際にも説明する。</p>										
〔授業計画と内容〕										
授業計画  第1回～第8回 ・細胞間シグナル分子に関する最近の研究についてのプレゼンテーションおよびそれに基づく討論と解説 ・形態形成の分子機構に関する最近の研究についてのプレゼンテーションおよびそれに基づく討論と解説 ・病態代謝の分子機構に関する最近の研究についてのプレゼンテーションおよびそれに基づく討論と解説 ・遺伝子・ゲノム科学に関する最近の研究についてのプレゼンテーションおよびそれに基づく討論と解説 第9回～第15回 ・各種イオンチャネルに関する最近の研究についてのプレゼンテーションおよびそれに基づく討論と解説 ・神経伝達物質トランスポーターに関する最近の研究についてのプレゼンテーションおよびそれに基づく討論と解説 ・慢性疼痛の発症機構と鎮痛薬に関する最近の研究についてのプレゼンテーションおよびそれに基づく討論と解説 ・各種精神疾患の病態と治療薬に関する最近の研究についてのプレゼンテーションおよびそれに基づく討論と解説 ・神経変性疾患の病態と治療薬に関する最近の研究についてのプレゼンテーションおよびそれに基づく討論と解説										
〔履修要件〕										
なし										
〔成績評価の方法・基準〕										
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
必要に応じてプリントを配布する。										
〔参考書等〕										
必要に応じて科学論文、総説、教科書などを参考にする。										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科本館2階遺伝子薬学分野教授室 (対応者: 伊藤信行 内線4540) 場所: 薬学研究科本館2階生体機能解析学分野教授室 (対応者: 金子周司 内線4541)  コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は生体機能解析学演習及び遺伝子薬学演習となり、生体機能解析学分野及び遺伝子薬学分野の学生には必修の演習科目です。										

授業科目名 (英訳)	基盤生体情報薬学演習(生体情報制御学演習) <Seminar in Basic Physiological Chemistry (Physiological Chemistry Seminar)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・中山和久、助教・加藤洋平、生命科学 系キャリアパス形成ユニット助教・申惠媛			
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	演習
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的)プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、メンブレントラフィックやシグナル伝達に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>(概要)メンブレントラフィックやタンパク質分解と、それに関連する細胞分裂などの細胞機能の調節機構、あるいはホルモンなどのシグナル伝達、病態生理に関する最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。プレゼンテーションや討論の方法に関する諸注意事項は、あらかじめ掲示等で周知するとともに、第1回めの演習の際にも説明する。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>第1回～第3回 メンブレントラフィック研究法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>細胞内小胞輸送に関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>細胞内小胞輸送に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>細胞内小胞輸送に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>第4回～第6回 タンパク質分解研究法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タンパク質分解に関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>タンパク質分解に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>タンパク質分解に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>第7回～第9回 細胞分裂研究法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>細胞分裂に関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>細胞分裂に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>細胞分裂に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>第10回～第12回 ホルモンシグナル伝達研究法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホルモンなどのシグナル伝達に関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>ホルモンなどのシグナル伝達に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>ホルモンなどのシグナル伝達に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul> <p>第13回～第15回 ホルモン病態生理研究法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホルモンなどの病態生理に関連する研究についてのプレゼンテーション</li> <li>ホルモンなどの病態生理に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく討論</li> <li>ホルモンなどの病態生理に関連する研究についてのプレゼンテーションに基づく解説</li> </ul>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
細胞の分子生物学(第4版)中村桂子、松原謙一監訳(ニュートンプレス)									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科総合研究棟4階中山教授室 (対応者: 中山和久 内線4527)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は生体情報制御学演習となり、生体情報制御学分野の学生には必修の演習科目です。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤薬品動態医療薬学演習 (薬品動態制御学演習、薬品作用解析学演習) <Basic Pharmacology and Drug Delivery Research Seminar (Drug Delivery Research Seminar, Pharmacology Seminar)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・赤池昭紀、准教授・久米利明、助教・ 泉安彦、教授・橋田充、准教授・山下富 義、講師・川上茂			
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限		授業形態	演習
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的)プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、医薬品作用の分子論的機構、ドラッグデリバリーシステムの開発等に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>(概要)薬品作用解析学、薬物動態学、ドラッグデリバリーシステム開発、および関連する研究分野における最新の文献を紹介し、討論する。</p>									
〔授業計画と内容〕									
第1回 神経変性疾患の病態と治療薬に関する研究の紹介とデータの解析 第2回 神経保護薬の探索・開発研究の紹介とデータの解析 第3回 ニコチン性アセチルコリン系に関する研究の紹介とデータの解析 第4回 アポトーシスおよびネクローシスに関する研究の紹介とデータの解析 第5回 活性酸素の細胞毒性とその制御に関する研究の紹介とデータの解析 第6回 天然物由来薬理活性物質に関する研究の紹介とデータの解析 第7回 神経再生、神経幹細胞に関する研究の紹介とデータの解析 第8回 核酸医薬品の体内動態に関する研究の紹介とデータの解析 第9回 生理活性タンパク質の体内動態に関する研究の紹介とデータの解析 第10回 遺伝子治療法に関する研究の紹介とデータの解析 第11回 機能性高分子に関する研究の紹介とデータの解析 第12回 薬物トランスポーターに関する研究の紹介とデータの解析 第13回 薬物代謝酵素に関する研究の紹介とデータの解析 第14回 薬物動態解析法に関する研究の紹介とデータの解析 第15回 補講と総合討論									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
適宜内容に応じて指定する。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
オフィスアワー: 随時受け付ける 場所: 総合研究棟1階 薬品作用解析学分野教授室(赤池教授) 場所: 総合研究棟2階 薬品動態制御学分野教授室(橋田教授)									
コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は薬品動態制御学演習、薬品作用解析学演習となり、薬品機能解析学分野、薬品動態制御学分野の学生には必須の演習科目です。									

授業科目名 (英訳)	基盤病態機能解析学演習 (病態機能分析学演習、病態情報薬学演習) <Seminar in Basic Patho-Functional Analysis (Patho-Functional Bioanalysis Seminar, Biopharmaceutics and Drug Metabolism Seminar)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・佐治英郎、教授・高倉喜信、准教授・ 小野正博、准教授・西川元也、助教・天満 敬、助教・高橋有己			
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	演習
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的) プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、生体機能分析学、分子イメージング学、薬物動態学、ドラッグデリバリーシステム等に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>(概要) 生体機能解析法、インビボ画像解析、分子イメージング、遺伝子治療医薬品の体内動態やデリバリー技術に関する最新の文献を紹介するとともに、それに基づく討論を行う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体機能の状態分析に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・生体分子イメージングプローブの分子設計に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・生体分子イメージング法による病態・病因に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・生体分子イメージング法の医薬品開発への応用に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・脳・心機能、腫瘍などの分子イメージングに関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・臨床画像診断薬、放射性治療薬創製に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・生物無機化学に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・核酸医薬品の体内動態・細胞内動態の支配因子に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・遺伝子治療、DNAワクチンの最適化に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・マクロファージ・樹状細胞における高分子薬物の取り込み機構に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・RNA干渉を利用した遺伝子機能解析及び治療への応用に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・核酸を基盤としたドラッグデリバリーに関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・薬物キャリアーを利用したターゲティングに関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・高分子医薬品の体内動態を対象とした統計解析法に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・補講と総合討論</li> </ul>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
演習の内容に応じて指定する場合がある。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科総合研究棟4階病態機能分析学分野教授室 (対応者: 佐治英郎 内線4556) 場所: 薬学研究科総合研究棟2階病態情報薬学分野教授室 (対応者: 高倉喜信 内線4615)									
コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は病態機能分析学演習、病態情報薬学演習となり、病態機能分析学分野、病態情報薬学分野の学生には必修の演習科目です。									

授業科目名 (英訳)		基盤精密有機合成化学演習 (精密有機合成化学演習) <Basic Organic Chemistry Seminar (Organic Chemistry Seminar)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究所所属)		化学研究所 教授 川端猛夫 化学研究所 准教授 古田巧		
配当学年	1・2回生	単位数	1	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習	
【授業の概要・目的】										
<p>(目的) 有機化学、合成反応、不斉合成、分子認識、立体化学、超分子化学、有機金属化学、構造有機化学、機能性分子、計算化学に関する最近の文献を中心に紹介し、討論を行なう。専門的知識の習得、論理的思考の実践的訓練を最新の研究論文を題材として行う。プレゼンテーションや討論を通じて、研究者としてのコミュニケーション能力を身につける。協調性、建設的思考、俯瞰的視野を持つ自立した研究者育成を目指し、その土壌づくりを行う。</p> <p>(概要) 上記研究分野での基礎研究を中心としつつ応用研究も適宜紹介し、討論を行う。担当者はレジメを用意してプレゼンテーションを行い、討論は全員が参加する。英語での議論を含めるよう配慮する。</p>										
【授業計画と内容】										
第1回～第2回		分子の構造、キラリティー、及び反応の立体化学に関する研究の紹介と討論								
第3回～第4回		不斉合成法の開発に関する研究の紹介と討論								
第5回～第6回		精密分子認識に関する研究の紹介と討論								
第7回～第8回		複雑な三次元構造を持つ生理活性天然物の全合成に関する研究の紹介と討論								
第9回～第10回		超分子の設計と合成及び三次元構造の解析に関する研究の紹介と討論								
第11回～第12回		エノラートの構造と反応性に関する研究の紹介と討論								
第13回～第14回		有機金属化学に関する研究の紹介と討論								
第15回		分子軌道法及び分子力場法による分子モデリング、分子軌道法による反応機構解析に関する研究の紹介と討論								
【履修要件】										
なし										
【成績評価の方法・基準】										
論文内容の把握、研究の背景や展開を考察する力、レジメ作成の技術、プレゼンテーションや討論の適切さと熱意、議論の建設性、協調性などを総合的に評価する。										
【教科書】										
論文紹介用のレジメ										
【参考書等】										
学術論文、有機化学関連の専門書										
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】										
<p>オフィスアワー: 在室時はいつでも可  川端猛夫: 場所、化学研究所3011号室 電話: 0774-38-3190(内線17-3190)、E-mail: kawabata@scl.kyoto-u.a.jp  古田巧: 場所、化学研究所4001号室 電話: 0774-38-3191(内線17-3191)、E-mail: furuta@fos.kuicr.kyoto-u.a.jp  コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は精密有機合成化学演習となり、精密有機合成化学分野の学生には必修の演習科目です。</p>										



授業科目名 (英訳)	基盤生体機能化学演習(生体機能化学演習) 〈Basic Biofunctional Chemistry Seminar(Biofunctional Chemistry Seminar)〉				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	化学研究所教授・二木史朗			
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	演習
〔授業の概要・目的〕									
<p>化学と生物学との境界領域における研究に関する最新の研究を整理・紹介し、問題点や話題点について討論を行う。これらの演習を通して科学的知識を深めると共に、他分野への視野を広め、科学者としての優れた素養を養う。また、論文内容や問題点等を的確に平易に解説する訓練を積むとともに、これを通してプレゼンテーション能力を高める。プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、生命科学分野、特に化学と生物学との境界領域における研究に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>授業計画 下記研究に関して結果の分析、プレゼンテーションとそれに基づく討論と検討を行う。</p> <p>第1回～第3回 タンパク質や核酸の立体構造と機能設計 第4回～第6回 生体高分子の相互作用とその集合体の構造 第7回～第9回 遺伝子発現の機構と調節 第10回～第11回 細胞内における生体分子の相互作用と応答 第12回～第13回 化学・生化学的手法による細胞機能の調節と制御 第14回～第15回 細胞内における動的分子相互作用とその可視化</p>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
演習への出席状況、問題解析力、プレゼンテーション、討論の適切さを考慮し、総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリント等を配布する。									
〔参考書等〕									
タンパク質の構造入門(第2版)、細胞の分子生物学(第4版)(いずれもニュートンプレス)など									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 化学研究所本館4階二木教授室 (対応者: 二木史朗 内線 宇治3210)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は生体機能化学演習となり、生体機能化学分野の学生には必修の演習科目です。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤生理活性制御学演習(生理活性制御学演習) <Basic Cell Biology Seminar (Cell Biology Seminar)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	生命科学研究科教授・小堤保則 生命科学研究科准教授・竹松 弘			
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	演習
〔授業の概要・目的〕									
<p>概要:分子生物学、細胞生物学、微生物学の知識に基づいた最新の免疫学、糖鎖生物学、脂質生物学に関する最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。プレゼンテーションや討論の方法に関する諸注意事項は、あらかじめ掲示等で周知するとともに、第1回目の演習の際にも説明する。</p> <p>目的:プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、免疫学、糖鎖生物学、脂質生物学に関する基礎的知識の習得を行うとともに、その発展応用に関する基盤的な思考能力および問題解決能力の習得をめざす。</p>									
〔授業計画と内容〕									
第1回 基礎分子生物学演習 第2回 発展分子生物学演習 第3回 基礎細胞生物学演習 第4回 発展細胞生物学演習 第5回 微生物学演習 第6回 基礎免疫学演習 第7回 発展免疫学演習 第8回 基礎糖鎖生物学演習 第9回 発展糖鎖生物学演習 第10回 基礎脂質生物学演習 第11回 発展脂質生物学演習 第12回 統合生物学演習1 第13回 統合生物学演習2 第14回 統合生物学演習2 第15回 補講									
〔履修要件〕									
特になし									
〔成績評価の方法・基準〕									
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
特に指定しない。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー:在室の時にはいつでも可 場所:本館3階(小堤教授室)  事前連絡方法:電話(内線7684)あるいはe-mail:yasu@pharm.kyoto-u.ac.jp</p>									

授業科目名 (英訳)		基盤神経機能制御学演習(神経機能性制御学演習) <Seminar in Molecular Neurobiology(Seminar for Molecular Neurobiology)>				担当者氏名 (所属名がない場合は薬学研究科所属)		生命科学研究所 教授 根岸学 生命科学研究所 準教授 加藤裕教		
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	演習	
〔授業の概要・目的〕										
<p>(目的) 情報伝達、特に神経機能の分子メカニズムに関する最近の文献を紹介し、その研究のデザインと趣旨について検討し、自らの研究に役立てる一方、各個人の研究の問題点と、今後の方向性について議論し、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>(概要) 生体内の情報伝達、特に神経機能の分子メカニズムに関する最近の論文を紹介し、その研究のデザインと趣旨について、研究室のプロジェクトの方向性の点から検討する。また、各個人が研究報告を行い、研究の問題点を検討し、今後の方向性を議論する。プレゼンテーションや討論の方法に関する諸注意事項は、あらかじめ掲示等で周知するとともに、第1回めの演習の際にも説明する。</p>										
〔授業計画と内容〕										
<p>第1回～3回: 神経細胞分化研究法 神経細胞分化に関する研究についてのプレゼンテーション、及びそれに基づく討論と解説</p> <p>第4～6回: 神経軸索伸長研究法 神経軸索伸長に関する研究についてのプレゼンテーション、及びそれに基づく討論と解説</p> <p>第7～9回: 樹状突起伸長研究法 樹状突起伸長に関する研究についてのプレゼンテーション、及びそれに基づく討論と解説</p> <p>第10～12回: シナプス形成研究法 シナプス形成に関する研究についてのプレゼンテーション、及びそれに基づく討論と解説</p> <p>第13～15回: Rhoファミリー研究法 Rhoファミリーに関する研究についてのプレゼンテーション、及びそれに基づく討論と解説</p>										
〔履修要件〕										
なし										
〔成績評価の方法・基準〕										
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
必要に応じてプリントを配布する。										
〔参考書等〕										
なし										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 医学生命科学総合研究棟1階根岸教授室 (対応者: 根岸学 内線4547)										

授業科目名 (英訳)		基盤医療薬剤学演習(医療薬剤学演習) <Seminar in Basic Clinical Pharmacy (Clinical Pharmacy Seminar)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		附属病院薬剤部 准教授・桂 敏也、講師・ 増田智先、助教・本橋秀之、助教・福土将 秀、助教・米澤 淳		
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	演習	
【授業の概要・目的】										
<p>(目的)プレゼンテーションとそれに基づく討論を通じて、医療薬剤学に関連する知識や個々のデータの解釈法や論理性などの基本的な考え方を身につけるとともに、研究の進め方や多様な科学的問題に対処するための問題解決能力の習得をめざす。</p> <p>(概要)薬物体内動態および医薬品適正使用を中心とする医療薬剤学の諸問題に関する最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。プレゼンテーションや討論の方法に関する諸注意事項は、あらかじめ掲示等で周知するとともに、第1回めの演習の際にも説明する。</p>										
【授業計画と内容】										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物トランスポータの分子・細胞生物学的研究の紹介とデータの解析</li> <li>・病態時における薬物動態の変動因子に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・医薬品投与設計に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・医薬品の副作用・毒性に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・医薬品の相互作用と適正使用に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・ファルマコゲノミクスとテーラーメイド医療に関する研究の紹介とデータの解析</li> <li>・チーム医療における薬剤師の役割に関する研究の紹介と討論</li> </ul>										
【履修要件】										
なし										
【成績評価の方法・基準】										
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。										
【教科書】										
必要に応じてプリントを配布する。										
【参考書等】										
特になし										
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】										
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 連絡先: 桂 敏也 内線16-3590)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は医療薬剤学演習となり、医療薬剤学分野の学生には必修の演習科目です。</p>										

授業科目名 (英訳)		基盤薬科学特別演習 (創薬科学演習・生命薬科学演習・医療薬科学演習) <Special Research Seminar in Basic Pharmaceutical Sciences (Special Research Seminar for Physical and Organic Chemistry, Life Sciences, and Pharmacy and Biomedical Sciences)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		薬科学専攻教員	
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火2	授業形態	特別演習
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的)他の学生の研究発表を聴いてその内容をわかりやすくまとめて解説すること、および自らの研究内容についてのわかりやすい発表を行うための準備や実際のプレゼンテーションを通じて、研究を遂行する上で不可欠な説明能力の習得をめざす。</p> <p>(概要)発表会において研究発表を聴講して、その内容をわかりやすくまとめて解説した報告書を提出する。さらに、自らの研究内容について解説するための準備し、発表会において実際のプレゼンテーションを行う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文発表会の聴講</li> <li>・修士論文発表会における研究発表に関する報告書の作成</li> <li>・修士論文発表会における発表の準備</li> <li>・修士論文発表会におけるプレゼンテーション</li> </ul>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
発表会への出席状況、提出された報告書、および発表会での発表状況をもとに総合的に評価する。									
〔教科書〕									
なし									
〔参考書等〕									
なし									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
コメント:履修に関しては各指導教員の指示に従うこと。									

授業科目名 〈英訳〉	基盤薬品創製化学実験 (薬品合成化学実験、薬品分子化学実験、薬品資源学実験、精密有機合成化学実験) <Research in Basic Medicinal and Organic Chemistry (Research in Synthetic Medicinal Chemistry, Research in Organic Chemistry, Research in Pharmacognosy, Research in Fine Organic Synthesis)>				担当者氏名 (所属名がない場合は薬学研究所所属)	教授・竹本佳司、准教授・大野浩章、准教授・山田健一、准教授・高須清誠、准教授・伊藤美千穂、助教・塚野千尋			
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	実験
[授業の概要・目的]									
<p>ペプチドリード医薬品と創薬テンプレート構築に関する新規方法論の開発研究、触媒的不斉合成反応と高次構造制御によるナノケミストリーに関する基礎研究、生物活性化合物の合理的設計と実践的な合成法の開発研究、生薬ならびに薬用植物の生理活性と生合成などに関する応用研究を行う。また、研究室で行う実験を通じて、研究に対する考え方、文献検索や調査、研究計画の立案、専門実験技術、データ整理と解析方法などを習得しながら、総合的な問題解決能力を養う。</p>									
[授業計画と内容]									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペプチド・蛋白質の化学合成に関する新手法の開発と応用に関する実験</li> <li>・創薬テンプレートを活用した新規酵素阻害剤、受容体リガンドの創製に関する実験</li> <li>・構造生物学的手法を基にしたHIV侵入阻害剤の分子設計・合成に関する実験</li> <li>・炭素—炭素結合形成反応の開発に関する実験</li> <li>・不斉合成反応に関する実験</li> <li>・機能性分子の創製に関する研究</li> <li>・遷移金属触媒を活用した触媒反応に関する実験</li> <li>・生物活性を有する天然化合物の全合成研究に関する実験</li> <li>・生体機能を制御する分子の創製に関する実験</li> <li>・薬用植物の二次代謝機能解析と多様性に関する実験</li> <li>・天然薬物資源の探索と評価に関する実験</li> </ul>									
[履修要件]									
なし									
[成績評価の方法・基準]									
定期的に報告会を実施する。また、普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。									
[教科書]									
特に定めない。									
[参考書等]									
必要に応じて科学論文、総説、教科書などを参考にする。									
[その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)]									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究所本館4階竹本教授室 (対応者: 竹本佳司 内線4528)          薬学研究所本館4階薬品合成化学分野研究室 (対応者: 山田健一 准教授 内線4573)          薬学研究所別館1階 (対応者: 伊藤美千穂 准教授 内線4506)</p>									
<p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は薬品合成化学実験、薬品分子化学実験、薬品資源学実験となり、薬品合成化学分野、薬品分子化学分野、薬品資源学分野の学生には必修の実験科目です。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤薬品機能統御学実験 (薬品機能解析学実験、構造生物薬学実験) <Research in Basic Biophysical Chemistry (Research in Biophysical Chemistry, Research in Structural Biology)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・加藤博章、教授・松崎勝巳、准教授・ 中津亨、准教授・星野大、助教・矢野義明、 助教・山口知宏			
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時間		授業形態	実験
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的)研究室で行う実験を通じて、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。</p> <p>(概要)生物物理化学・構造生物学に関する研究を行う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・抗菌性ペプチドの作用機構の解明と創薬への展開に関する研究</li> <li>・膜を介したアミロイド形成機構に関する研究</li> <li>・膜タンパク質の構造形成原理に関する研究</li> <li>・受容体の可視化解析に関する研究</li> <li>・NMRによる生体分子の構造解析に関する研究</li> <li>・ABCトランスポーターメカニズムの構造基盤の解明と創薬への応用に関する研究</li> <li>・ペルオキシソーム膜タンパク質輸送メカニズムの構造基盤に関する研究</li> <li>・生物時計メカニズムの構造基盤の解明に関する研究</li> <li>・酵素と受容体機能の構造要因に関する研究</li> <li>・X線結晶解析手法の高度化に関する研究</li> </ul>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
特に定めない。									
〔参考書等〕									
必要に応じて科学論文、総説、単行本などを参考にする。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科総合研究棟3階松崎教授室 (対応者: 松崎勝巳 内線4521)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は薬品機能統御学実験、構造生物薬学実験となります。 薬品機能解析学分野・構造生物薬学分野の学生は必修です。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤薬品製剤設計学実験(製剤機能解析学実験) <Research in Basic Biosurface Chemistry (Research in Biocolloid and Biointerface Science)>					担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	准教授・中野実		
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	実験
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的)研究室で行う実験を通じて、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。</p> <p>(概要)物理化学的計測手法を用いて、タンパク質、脂質及びそれらの複合体の生体界面化学的性質を解明するとともに、それに関連する細胞の脂質ホメオスタシスに関する研究を行う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アポリポタンパク質による細胞からのコレステロール排出機構に関する研究</li> <li>・アポリポタンパク質、リパーゼ及びモデルペプチドの脂質認識メカニズムに関する研究</li> <li>・リポタンパク質中の危険因子とその作用機構に関する研究</li> <li>・ラメラ・非ラメラ液晶相及びそれらの分散ナノ粒子の生成と機能に関する研究</li> <li>・脂質ナノディスクの構造と機能に関する研究</li> <li>・膜の構造と膜脂質のダイナミクスに関する研究</li> <li>・リン脂質輸送タンパク質の輸送活性と脂質認識メカニズムに関する研究</li> </ul>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
なし									
〔参考書等〕									
必要に応じて科学論文、総説、教科書などを参考にする。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科本館3階A303 (対応者: 中野実 内線4565)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は製剤機能解析学実験となり、製剤機能解析学分野の学生には必修の実験科目です。</p>									



<b>授業科目名 (英訳)</b>		<b>基盤生体分子薬学実験</b> (生体分子認識学実験、分子微生物学実験) <Research in Basic Molecular Biology(Research in Biological Chemistry and Molecular Biology, Research in Molecular Microbiology)>			<b>担当者氏名</b> (所属名がない場合は薬学研究科所属)		教授・竹島浩、准教授・渡部好彦、助教・山本伸一郎		
<b>配当学年</b>	1・2回生	<b>単位数</b>	4	<b>開講期</b>	通年	<b>曜時限</b>		<b>授業形態</b>	実験
<b>〔授業の概要・目的〕</b>									
所属研究室で行う細胞機能を担う分子群のタンパク化学や生理機能に関する解析研究を通じて、実験に対する考え方、実験の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの実践的習得を目指す。									
<b>〔授業計画と内容〕</b>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小胞体Ca<sup>2+</sup>放出に関する研究</li> <li>・筋細胞の収縮機能に関する研究</li> <li>・細胞膜修復に関する研究</li> <li>・免疫細胞の機能応答に関する研究</li> <li>・ウイルス増殖機構に関する研究</li> <li>・インターフェロンに関する研究</li> </ul>									
<b>〔履修要件〕</b>									
特になし									
<b>〔成績評価の方法・基準〕</b>									
研究成果のみならず、研究室内での実験に取り組む姿勢などを総合的に評価する。									
<b>〔教科書〕</b>									
特に定めない									
<b>〔参考書等〕</b>									
標準分子医化学(医学書院)、標準生理学(医学書院)、標準免疫学(医学書院)、標準微生物学(医学書院)、さらに必要に応じて科学論文、総説、教科書などを参考にする。									
<b>〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕</b>									
オフィスアワー: 基盤生体分子薬学実験終了後。連絡先: 竹島浩(内線4572)、渡部好彦(内線4577)									
コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は生体分子認識学実験、分子微生物学実験となり、生体分子認識学分野、分子微生物学分野の学生には必修の実験科目です。									

授業科目名 (英訳)	基盤生体機能薬学実験 (生体機能解析学実験、遺伝子薬学実験) <Research in Basic Genetic Biochemistry and Basic Molecular Pharmacology (Research in Genetic Biochemistry and Molecular Pharmacology)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・伊藤信行、教授・金子周司、准教授・中川貴之、講師・三宅 歩、助教・白川久志			
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	実験
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的)研究室で行う実験を通じて、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。</p> <p>(概要)新規遺伝子の探索と機能解析および形態形成の分子機構、および中枢神経系における膜輸送タンパク質(イオンチャネル・トランスポーター)とそれらの病態生理的役割に関する研究を行う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規細胞間シグナル分子遺伝子の探索に関する研究</li> <li>・新規細胞間シグナル分子の構造とその生物活性に関する研究</li> <li>・新規細胞間シグナル分子の発現様式に関する研究</li> <li>・新規細胞間シグナル分子遺伝子欠損動物の作成と解析に関する研究</li> <li>・形態形成の分子機構に関する研究</li> <li>・病態代謝の分子機構に関する研究</li> <li>・各種イオンチャネルに関する研究</li> <li>・神経伝達物質トランスポーターに関する研究</li> <li>・慢性疼痛の発症機構と鎮痛薬に関する研究</li> <li>・各種精神疾患の病態と治療薬に関する研究</li> <li>・神経変性疾患の病態と治療薬に関する研究</li> </ul>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
特に定めない。									
〔参考書等〕									
必要に応じて科学論文、総説、教科書などを参考にする。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。</p> <p>場所: 薬学研究科本館2階遺伝子薬学分野教授室 (対応者: 伊藤信行 内線4540)</p> <p>場所: 薬学研究科本館2階生体機能解析学分野教授室 (対応者: 金子周司 内線4541)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は生体機能解析学実験及び遺伝子薬学実験となり、生体機能解析学分野及び遺伝子薬学分野の学生には必修の実験科目です。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤生体情報薬学実験(生体情報制御学実験) <Research in Basic Physiological Chemistry (Research in Physiological Chemistry)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・中山和久、助教・加藤洋平、生命科学 系キャリアパス形成ユニット助教・申惠媛			
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	実験
【授業の概要・目的】									
<p>(目的)研究室で行う実験を通じて、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。  (概要)メンブレントラフィックやタンパク質分解と、それに関連する細胞分裂などの細胞機能の調節機構に関する研究を行う。</p>									
【授業計画と内容】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸送小胞の形成に関与する低分子量GTPアーゼArfの活性調節因子やエフェクターの機能に関する研究</li> <li>・輸送小胞と標的オルガネラ膜の融合に関与する低分子量GTPアーゼRabの活性調節因子やエフェクターの機能に関する研究</li> <li>・クラスリンのアダプタータンパク質の機能に関する研究</li> <li>・ユビキチンが関与するリソソームでのタンパク質分解の調節に関する研究</li> <li>・メンブレントラフィックにおけるゴルジ体やエンドソームの機能に関する研究</li> <li>・メンブレントラフィックによる細胞分裂の調節機構に関する研究</li> <li>・低分子量GTPアーゼのArfやRabによる細胞分裂の調節機構に関する研究</li> <li>・エンドサイトーシス経路の詳細に関する研究</li> <li>・エンドサイトーシスとエキソサイトーシスの交差に関する研究</li> </ul>									
【履修要件】									
なし									
【成績評価の方法・基準】									
普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。									
【教科書】									
なし									
【参考書等】									
細胞の分子生物学(第4版)中村桂子、松原謙一監訳(ニュートンプレス);分子細胞生物学 多賀谷光男著(朝倉書店);その他、必要に応じて科学論文、総説、教科書などを参考にする。									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科総合研究棟4階中山教授室 (対応者: 中山和久 内線4527)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は生体情報制御学実験となり、生体情報制御学分野の学生には必修の実験科目です。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤薬品動態医療薬学実験 (薬品動態制御学実験、薬品作用解析学実験) <Research in Pharmacology and Drug Delivery (Research in Drug Delivery, Research in Pharmacology)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究所所属)	教授・赤池昭紀、准教授・久米利明、助教・ 泉安彦、教授・橋田充、准教授・山下富 義、講師・川上茂			
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	実験
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的) 先端的な薬品作用解析学、薬品動態制御学に関する研究の遂行を通じて、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。</p> <p>(概要) 神経細胞死、保護、再生に関する神経薬理学研究を実施する。また、核酸医薬品、タンパク質医薬品などのドラッグデリバリーシステムの開発、評価、および体内動態予測に関する研究を実施する。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経変性疾患の病態と治療薬の開発に関わる基礎実験</li> <li>・神経保護薬の探索・開発研究に関する基礎実験</li> <li>・認知症、パーキンソン病などの神経変性疾患の病態モデルの作成と治療薬の作用の解析</li> <li>・神経系におけるアポトーシスとネクローシスの解析</li> <li>・グルタミン酸神経毒性の機序に関する実験</li> <li>・活性酸素の細胞毒性とその制御に関する実験</li> <li>・神経再生、神経幹細胞に関するin vitroでの解析</li> <li>・受容体の機能と選択的薬物の作用の解析</li> <li>・核酸医薬品のデリバリーシステムの開発、評価に関する実験</li> <li>・生理活性タンパク質のデリバリーシステムの開発、評価に関する実験</li> <li>・高分子プロドラッグの開発、評価に関する実験</li> <li>・DDS素材としての機能性分子・粒子の創製に関する実験</li> <li>・ドラッグデリバリーのためのMEMSの開発、評価に関する実験</li> <li>・体内・細胞内動態評価のための新規実験法開発</li> <li>・薬物動態シミュレーション、予測法の開発に関する実験</li> </ul>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
研究の立案、遂行能力および態度を総合的に評価する。									
〔教科書〕									
特になし									
〔参考書等〕									
適宜、原著論文、総説、書物を利用する。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
オフィスアワー: 随時受け付ける 場所: 総合研究棟1階 薬品作用解析学分野教授室(赤池教授) 場所: 総合研究棟2階 薬品動態制御学分野教授室(橋田教授)									
コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は薬品動態制御学実験、薬品作用解析学実験となり、薬品機能解析学分野、薬品動態制御学分野の学生には必須の実験科目です。									

授業科目名 (英訳)	基盤病態機能解析学実験 (病態機能分析学実験、病態情報薬学実験) <Research in Basic Pharmacodynamic Sciences (Research in Patho-Functional Bioanalysis, Research in Biopharmaceutics and Drug Metabolism)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・佐治英郎、教授・高倉喜信、准教授・ 小野正博、准教授・西川元也、助教・天満 敬、助教・高橋有己			
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	実験
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的) 実験を通じて、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。</p> <p>(概要) 分子イメージングによる生体機能の状態分析とそれによる病態及び薬物相互作用機構の解明、病態の特性に基づく機能性核医学診断、治療薬剤の創製、生理活性金属化合物の生体に対する作用の解明に関する研究を行う。また、遺伝子治療やDNAワクチン療法に応用される各種核酸医薬品の体内動態プロセスとその支配機構に関して生物薬剤学的、薬物速度論的研究を行う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生体機能の状態分析に関する実験</li> <li>・ 生体分子イメージングプローブの分子設計に関する実験</li> <li>・ 生体分子イメージング法による病態・病因および薬物相互作用機構の解明に関する実験</li> <li>・ 生体分子イメージング法の医薬品開発への応用に関する実験</li> <li>・ 脳・心機能、腫瘍などの分子イメージングに関する実験</li> <li>・ 臨床画像診断薬、放射性治療薬創製に関する実験</li> <li>・ 生物無機化学に関する実験</li> <li>・ 核酸医薬品の体内動態・細胞内動態の支配因子に関する実験</li> <li>・ 遺伝子治療、DNAワクチンの最適化に関する実験</li> <li>・ マクロファージ・樹状細胞における高分子薬物の取り込み機構に関する実験</li> <li>・ RNA干渉を利用した遺伝子機能解析及び治療への応用に関する実験</li> <li>・ 核酸を基盤としたドラッグデリバリーに関する実験</li> <li>・ 薬物キャリアーを利用したターゲティングに関する実験</li> <li>・ 高分子医薬品の体内動態を対象とした統計解析法に関する実験</li> </ul>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
特に定めない。									
〔参考書等〕									
必要に応じて科学論文、総説、教科書などを参考にする									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。</p> <p>場所: 薬学研究科総合研究棟4階病態機能分析学分野教授室 (対応者: 佐治英郎 内線4556)</p> <p>場所: 薬学研究科総合研究棟2階病態情報薬学分野教授室 (対応者: 高倉喜信 内線4615)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は病態機能分析学実験、病態情報薬学実験となり、病態機能分析学分野、病態情報薬学分野の学生には必修の演習科目です。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤精密有機合成化学実験 (精密有機合成化学実験) <Research in Basic Fine Organic Synthesis (Research in Fine Organic Synthesis)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	化学研究所 教授 川端猛夫 化学研究所 准教授 古田巧 化学研究所 助教 吉村智之			
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	実験
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的) 有機分子の相互作用や反応は分子どうしのコミュニケーションと言える。ここで用いられる言語への理解を深め、従来にはない反応制御系を開拓し、有機化学での新しいコンセプトの提唱と確立を目的とする。</p> <p>(概要) 動的不斉制御の方法論の確立、動的分子認識に立脚した選択的反応触媒の開発、多官能基性化合物の特定の位置で反応を起こすインテリジェント触媒の開発、基質特異性の設計:分子の絶対配置や形状を識別して反応する触媒の開発、特異な構造を持つ新しい分子種の創製、キラルユニットの集積効果に基づく高次構造の構築、独自の方法に基づく有用物質の生産、新規な反応場、認識場の構築、機能性分子の開発を行う。</p>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エノラート化学の新しい概念“不斉記憶”に関する実験</li> <li>・ 糖類、ポリオール類の触媒的位置選択的官能基化に関する実験</li> <li>・ 有機触媒を用いる不斉合成法開発に関する実験</li> <li>・ 設計された基質特異性を持つ触媒開発に関する実験</li> <li>・ 短寿命キラルエノラートを中間体とする不斉合成法に関する実験</li> <li>・ 4置換炭素を持つ含窒素複素環、新規アミノ酸の合成に関する実験</li> <li>・ 生理活性天然物の全合成に関する実験</li> <li>・ D,L-型オリゴペプチド、オリゴエステルの高次構造と機能開発に関する実験</li> <li>・ 新規な軸性不斉化合物の創製に関する実験</li> <li>・ プロトン性溶媒中でのエノラート化学に関する実験</li> <li>・ 多点認識型有機触媒の開発に関する実験</li> <li>・ 酸化的2量化を経る新規合成法の開発に関する実験</li> <li>・ 非環状イオノフォアの創製に関する実験</li> </ul>									
〔履修要件〕									
〔成績評価の方法・基準〕									
研究に取り組む姿勢、リサーチセミナーでの発表や討議、学会発表、論文発表などを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
なし									
〔参考書等〕									
科学論文、総説、教科書、SciFinder等のインターネットによる情報検索など。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 在室時はいつでも可  川端猛夫: 場所、化学研究所3011号室 電話: 0774-38-3190(内線17-3190)、E-mail: kawabata@scl.kyoto-u.a.jp  古田巧: 場所、化学研究所4001号室 電話: 0774-38-3191(内線17-3191)、E-mail: furuta@fos.kuicr.kyoto-u.a.jp  吉村智之: 場所、化学研究所4012号室 電話: 0774-38-3193(内線17-3193)、E-mail: tyoshimu@fos.kuicr.kyoto-u.a.jp  コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は精密有機合成化学実験となり、精密有機合成化学分野の学生には必修の演習科目です。</p>									

授業科目名 〈英訳〉		基盤生体機能化学実験(生体機能化学実験) 〈Research in Basic Biofunctional Chemistry (Research in Biofunctional Chemistry)〉				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		化学研究所教授・二木史朗、化学研究所助 教・今西未来、化学研究所助教・中瀬生彦		
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	実験	
〔授業の概要・目的〕										
細胞内への物質の取り込み、細胞膜を介する情報伝達、遺伝子の認識と転写といった生体機能を制御する生理活性分子の機能解明・機能創出を目的とした化学的、分子生物学的、細胞生化学的研究を行う。										
〔授業計画と内容〕										
<ul style="list-style-type: none"> <li>○細胞機能・遺伝子を制御する生理活性蛋白質の創製</li> <li>○細胞膜透過ペプチドベクターの開発とメカニズム</li> <li>○亜鉛フィンガー型転写因子のDNA認識と機能解析</li> <li>○細胞内ターゲティング(核・ミトコンドリアなど)の化学と分子設計</li> <li>○細胞内分子の動的相互作用解明のための新手法の開発</li> <li>○環境応答型機能性ペプチドのデザイン</li> </ul>										
〔履修要件〕										
なし										
〔成績評価の方法・基準〕										
実験への出席、実験内容の立案と計画、実験結果とその解析などの状況や適切さをみて総合的に評価する。										
〔教科書〕										
特に定めない。										
〔参考書等〕										
タンパク質の構造入門(第2版)、細胞の分子生物学(第4版)(いずれもニュートンプレス)など										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 化学研究所本館4階二木教授室 (対応者: 二木史朗 内線 宇治3210)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は生体機能化学実験となり、生体機能化学分野の学生には必修の演習科目です。</p>										

授業科目名 (英訳)		基盤生理活性制御学実験(生理活性制御学実験) <Research in Basic Cell Biology (Research in Cell Biology)>				担当者氏名 (所属名がない場合は薬学研究科所属)		生命科学研究科教授・小堤保則 生命科学研究科准教授・竹松 弘	
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	実験
〔授業の概要・目的〕									
<p>概要:分子生物学、細胞生物学、微生物学の基本及び発展的な実験技術に基づいた最新の免疫学、糖鎖生物学、脂質生物学の研究を行う。</p> <p>目的:免疫学、糖鎖生物学、脂質生物学に関する基礎的な実験手技の習得、並びにその発展応用に関する基盤的な実験能力の習得</p>									
〔授業計画と内容〕									
第1回 基礎分子生物学実験 第2回 発展分子生物学実験 第3回 基礎細胞生物学実験 第4回 発展細胞生物学実験 第5回 微生物学実験 第6回 基礎免疫学実験 第7回 発展免疫学実験 第8回 基礎糖鎖生物学実験 第9回 発展糖鎖生物学実験 第10回 基礎脂質生物学実験 第11回 発展脂質生物学実験 第12回 統合生物学実験1 第13回 統合生物学実験2 第14回 統合生物学実験3 第15回 補講									
〔履修要件〕									
特になし									
〔成績評価の方法・基準〕									
普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
特に定めない。									
〔参考書等〕									
特に定めない									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 在室の時にはいつでも可 場所: 本館3階(小堤教授室)  事前連絡方法: 電話(内線7684)あるいはe-mail: yasu@pharm.kyoto-u.ac.jp</p>									



授業科目名 〈英訳〉		基盤神経機能制御学実験(神経機能性制御学実験) 〈Research in Basic Molecular Neurobiology (Experimental Course of Molecular Neurobiology)〉			担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		生命科学研究所 教授 根岸学 生命科学研究所 準教授 加藤裕教		
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	実験
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的) 神経機能の分子メカニズムの解明の研究を通じて、高次生命体の応答制御の基本原則を理解し、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。</p> <p>(概要) G蛋白質による神経回路形成の制御機構、シナプスでの神経伝達の制御機構、神経可塑性の分子メカニズムなどに関する研究テーマを各自設定し、それに対応する実験計画を綿密に立て、創意工夫を重ねて研究を行う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経細胞分化の分子機構に関する研究</li> <li>・神経軸索伸長の分子機構に関する研究</li> <li>・樹状突起伸長の分子機構に関する研究</li> <li>・シナプス形成の分子機構に関する研究</li> <li>・Rhoファミリーの神経機能に関する研究</li> </ul>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
なし									
〔参考書等〕									
なし									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 医学生命科学総合研究棟1階根岸教授室 (対応者: 根岸学 内線4547)									

授業科目名 (英訳)	基盤医療薬剤学実験(医療薬剤学実験) <Research in Basic Clinical Pharmacy (Research in Clinical Pharmacy)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	附属病院薬剤部 准教授・桂 敏也、講師・ 増田智先、助教・本橋秀之、助教・福土将 秀、助教・米澤 淳			
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	実験
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的)研究室で行う実験を通じて、研究に対する考え方、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法、問題解決能力などの習得をめざす。</p> <p>(概要)薬物の体内動態、毒性・副作用、相互作用に関わる生体側因子(トランスポータ、薬物代謝酵素、遺伝多型等)の探索と解析、並びにそれらの医薬品適正使用への応用に関する研究を行う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物トランスポータの分子・細胞生物学的解析に関する基礎実験および臨床研究</li> <li>・病態時における薬物動態の変動因子に関する基礎実験および臨床研究</li> <li>・医薬品投与設計に関する基礎実験とその臨床応用</li> <li>・医薬品の副作用・毒性に関する基礎実験および臨床研究</li> <li>・医薬品の相互作用と適正使用に関する基礎実験および臨床研究</li> <li>・ファルマコゲノミクスとテーラーメイド医療に関する研究</li> </ul>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
普段の研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
なし									
〔参考書等〕									
臨床薬物動態学(改訂第4版)加藤隆一著(南江堂);臨床薬理学(第2版)日本臨床薬理学会編(医学書院);その他、必要に応じて科学論文、総説、教科書などを参考にする。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー:随時受け付ける。連絡先:桂 敏也 内線16-3590)</p> <p>コメント:創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は医療薬剤学実験となり、医療薬剤学分野の学生には必修の実験科目です。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤薬品創製化学実習(薬品創製化学実習) <Laboratory Practice in Basic Medicinal and Organic Chemistry (Advanced Methods in Medicinal and Organic Chemistry)>				担当者氏名 (所属名がない場合は薬学研究科所属)	教授・竹本佳司、准教授・大野浩章、准教授・山田健一、准教授・高須清誠、准教授・伊藤美千穂、助教・塚野千尋			
配当学年	1・2年生	単位数	1	開講期	通年	曜時限		授業形態	実習
〔授業の概要・目的〕									
薬学部学生に対する薬学専門実習2における有機合成化学、医薬品化学、ペプチド・蛋白質化学、薬品資源学に関連する実習内容を理解し、実験項目と実験計画の立案、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導を行う。それにより薬学専門実習の基礎的な実験法と考え方、および実験の立案能力や指導法の習得をめざす。									
〔授業計画と内容〕									
<p>第1回～第2回 実験項目と実験計画の立案 有機合成化学、医薬品化学、ペプチド・蛋白質化学、薬品資源学に関連する実習内容の立案と実験計画</p> <p>第3回～第4回 予習と予備実験 有機合成化学、医薬品化学、ペプチド・蛋白質化学、薬品資源学に関連する実習内容について学部学生に説明するための予習、実験計画の妥当性を評価するための予備実験</p> <p>第5回～第14回 実習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芳香族化合物の官能基変換反応および環化反応の実験</li> <li>・テオフィリン、フェニトインの合成実験</li> <li>・アミノ酸からアスパルテームの合成実験</li> <li>・シクロスポリンのビオチン化とシクロフィリンの同定実験</li> <li>・紫雲膏の調製、薬用植物の探索、生薬の鑑別実験</li> </ul> <p>第15回 実習成果発表と総合討論 有機合成化学、医薬品化学、ペプチド・蛋白質化学、薬品資源学に関連する実習成果の発表と総合討論</p>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
実習への出席、実習項目と実習計画の立案、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さをみて総合的に評価する。									
〔教科書〕									
薬学専門実習書									
〔参考書等〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科本館4階竹本教授室 (対応者: 竹本佳司 内線4528) 薬学研究科本館4階薬品合成化学分野研究室 (対応者: 山田健一准教授 内線4573) 薬学研究科別館1階(対応者: 伊藤美千穂准教授 内線4506)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は薬品創製化学実習となり、薬品合成化学分野、薬品分子化学分野、薬品資源学分野の学生には必修の実習科目です。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤薬品機能統御学実習(薬品機能統御学実習) <Laboratory Practice in Basic Analytical Chemistry and Structural Biology (Advanced Methods in Pharmaceutical and Biomedical Analysis)>				担当者氏名 (所属名がない場合は薬学研究科所属)	教授・加藤博章、教授・松崎勝巳、准教授・中津亨、准教授・星野大、助教・矢野義明、助教・山口知宏			
配当学年	1・2回生	単位数	1	開講期	通年	曜時限		授業形態	実習
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的)分析化学、構造生物学に関する基礎的実験法と考え方、および実験の立案能力や指導法の習得をめざす。</p> <p>(概要)薬学部学生に対する薬学専門実習1における分析化学、構造生物学に関連する実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導を行う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
第1回～第2回 実習内容の立案と計画 分析化学、構造生物学に関連する実習内容の立案と実験計画 第3回～第4回 予習と予備実験 分析化学、構造生物学に関連する実習内容について学部学生に説明するための予習、実験計画の妥当性を評価するための予備実験 第5回～第14回 実習指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・紫外・可視吸光分光光度計を用いた酸解離定数測定</li> <li>・<sup>1</sup>H-NMRスペクトルの測定とデータ解析法</li> <li>・キレート滴定を用いた複数金属イオンの定量分析法</li> <li>・HPLCによる分離・分析法ならびに定量分析</li> <li>・電位差滴定・伝導度滴定による多価酸塩基の中和反応の解析</li> <li>・タンパク質結晶化実験</li> <li>・X線回折強度データ解析法</li> <li>・X線結晶構造解析法</li> <li>・コンピュータプログラミング</li> <li>・データベース検索およびタンパク質立体構造データの解釈</li> </ul> 第15回 実習成果発表と総合討論 分析化学、構造生物学に関連する実習成果の発表と総合討論									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さをみて総合的に評価する。									
〔教科書〕									
薬学専門実習書									
〔参考書等〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科総合研究棟3階松崎教授室 (対応者: 松崎勝巳 内線4521)									
コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は薬品機能統御学実習となります。薬品機能解析学分野・構造生物薬学分野の学生は必修です。									

授業科目名 (英訳)	基盤薬品製剤設計学実習(薬品製剤設計学実習) <Laboratory Practice in Basic Biosurface Chemistry Chemistry (Advanced Methods in Drug Materials Sciences) >				担当者氏名 (所属名がない場合は薬学研究科所属)	准教授・中野実			
配当学年	1・2回生	単位数	1	開講期	通年	曜時限		授業形態	実習
[授業の概要・目的]									
<p>(目的) 医薬品製剤設計のための分析化学、分光学、物理化学に関する基礎的実験法と考え方、及び実験の立案能力や指導法の習得をめざす。</p> <p>(概要) 薬学部学生に対する薬学専門実習1における分析化学、分光学、物理化学に関連する実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導を行う。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>第1回～第2回 実習内容の立案と計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分析化学、分光学、物理化学に関連する実習内容の立案</li> <li>・分析化学、分光学、物理化学に関連する実験の計画</li> </ul> <p>第3回～第4回 予習と予備実験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分析化学、分光学、物理化学に関連する実習内容について学部学生に説明するための予習</li> <li>・分析化学、分光学、物理化学に関連する実験計画の妥当性を評価するための予備実験</li> </ul> <p>第5回～第14回 実習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・示差走査熱量測定による脂肪酸混合系の相図の作成</li> <li>・呈色法による脂質定量</li> <li>・蛍光法による膜分配係数測定</li> <li>・導電率測定による、イオンサイズ、弱電解質の解離定数、臨界ミセル濃度の算出</li> <li>・起電力測定による平均活量係数の算出</li> </ul> <p>第15回 実習成果発表と総合討論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品製剤設計のための分析化学、分光学、物理化学に関連する実習成果の発表と総合討論</li> </ul>									
[履修要件]									
なし									
[成績評価の方法・基準]									
実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さをみて総合的に評価する。									
[教科書]									
薬学専門実習書									
[参考書等]									
必要に応じてプリントを配布する。									
[その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)]									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科本館3階A303 (対応者: 中野実 内線4565)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は薬品製剤設計学実習となります。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤生体分子薬学実習(生体分子薬学実習) <Laboratory Practice in Basic Molecular Biology (Advanced Methods in Molecular Biochemistry)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・竹島浩、准教授・渡部好彦、助教・山 本伸一郎			
配当学年	1・2回生	単位数	1	開講期	通年	曜時限		授業形態	実習
〔授業の概要・目的〕									
薬学部学生に対する薬学専門実習における代謝生化学、細胞生理学、微生物学、免疫学に関連する実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導を行う。その実践により、生体分子薬学に関する基礎的実験法と考え方、および実験の立案能力や指導法の習得をめざす。									
〔授業計画と内容〕									
第1回～第2回 実習内容の立案と計画 代謝生化学、細胞生理学、微生物学、免疫学に関連する実習内容の立案と実験計画 第3回～第4回 予習と予備実験 代謝生化学、細胞生理学、微生物学、免疫学に関連する実習内容について学部学生に説明するための予習と予演、実験計画の妥当性を評価するための予備実験 第5回～第14回 実習指導 ・大腸菌を用いたcDNA機能発現実験 ・酵素反応速度論実験 ・タンパク質と核酸の電気泳動実験 ・細菌グラム染色法 ・細菌の薬剤耐性実験 ・細菌の紫外線感受性実験 ・ウイルス感染・増殖実験 第15回 実習成果発表と総合討論 代謝生化学、細胞生理学、微生物学、免疫学に関連する実習成果の発表と総合討論									
〔履修要件〕									
特になし									
〔成績評価の方法・基準〕									
実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
薬学専門実習書									
〔参考書等〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
オフィスアワー: 基盤生体分子薬学実習終了後。連絡先: 竹島浩(内線4572)、渡部好彦(内線4577)									
コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は生体分子認識学実習、分子微生物学実習となり、生体分子認識学分野、分子微生物学分野の学生には必修の実習科目です。									

授業科目名 (英訳)	基盤生体機能薬学実習(生体機能薬学実習) 〈Laboratory Practice in Basic Genetic Biochemistry and Basic Molecular Pharmacology (Advanced Methods in Biofunctional Sciences)〉				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・伊藤信行、教授・金子周司、生命科学 研究科教授・小堤保則、准教授・中川貴之、 生命科学研究科准教授・竹松 弘、講師・三 宅 歩、助教・白川久志			
配当学年	1・2回生	単位数	1	開講期	通年	曜時限		授業形態	実習
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的)遺伝子、免疫系、神経系、循環系に関する生化学的、分子生物学的、薬理学的実験方法 と考え方、および実験の立案能力や指導法の習得をめざす。</p> <p>(概要)薬学部学生に対する薬学専門実習3における遺伝子、免疫系、神経系、循環系に関連す る実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導を行 う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>授業計画</p> <p>第1回 実習内容の立案と計画 遺伝子、免疫系、神経系、循環系に関連する実習内容の立案と実験計画</p> <p>第2回 予習と予備実験 遺伝子、免疫系、神経系、循環系に関連する実習内容について学部学生に説明するための予習、実験計画の妥当 性を評価するための予備実験</p> <p>第3回～第15回 実習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ DNA単離・精製法と制限酵素によるDNAの限定分解法</li> <li>・ エレクトロポレーション法による大腸菌へのプラスミド導入とプラスミド抽出法</li> <li>・ 蛍光シーケンス法によるDNA塩基配列決定とコンピューターによる塩基配列データ解析法</li> <li>・ 抗原抗体反応に関する実験</li> <li>・ 免疫担当細胞の分離と解析法</li> <li>・ マウス脳の組織と細胞形態の観察</li> <li>・ 麻酔ラットの頸動脈圧に対する薬物の作用に関する実験</li> <li>・ 摘出心房標本に対する薬物の作用に関する実験</li> <li>・ 摘出腸管標本に対する薬物の作用に関する実験</li> <li>・ マウス行動観察による中枢作用薬の薬効評価法</li> </ul>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さをみて 総合的に評価する。									
〔教科書〕									
薬学専門実習書									
〔参考書等〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。場所: 薬学研究科本館2階伊藤教授室 (対応者: 伊藤信行 内線4540)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は生体機能薬学実習となりま す。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤生体情報薬学実習(生体情報薬学実習) <Laboratory Practice in Basic Physiological Chemistry (Advanced Laboratory Practice in Physiological Chemistry)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・中山和久、生命科学研究所教授・根岸 学、生命科学研究所准教授・加藤裕教、助 教・加藤洋平、生命科学系キャリアパス形成 ユニット助教・申恵媛			
配当学年	1・2回生	単位数	1	開講期	通年	曜時限		授業形態	実習
【授業の概要・目的】									
<p>(目的)衛生化学、生理化学、細胞生物学に関する基礎的実験法と考え方、および 実験の立案能力や指導法の習得をめざす。 (概要)薬学部学生に対する薬学専門実習3における衛生化学、生理化学、細胞生 物学に関連する実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習 時の学部学生の指導を行う。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回～第2回 実習内容の立案と計画 ・ 衛生化学、生理化学、細胞生物学に関連する実習内容の立案 ・ 衛生化学、生理化学、細胞生物学に関連する実験の計画 第3回～第4回 予習と予備実験 ・ 衛生化学、生理化学、細胞生物学に関連する実習内容について説明するための予習 ・ 衛生化学、生理化学、細胞生物学に関連する実験計画の妥当性を評価するための予備実験 第5回～第14回 実習指導 ・ 乳酸脱水素酵素のアイソザイムとサブユニットの会合様式の実験 ・ 細胞内オルガネラの分画法とマーカー分子による評価法 ・ GFP融合タンパク質を用いたタンパク質の細胞内局在決定法 ・ ラット大脳皮質ニューロンの初代培養法 ・ 神経成長因子による神経細胞への分化実験 第15回 実習成果発表と総合討論 衛生化学、生理化学、細胞生物学に関連する実習成果の発表と総合討論</p>									
【履修要件】									
なし									
【成績評価の方法・基準】									
実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さをみて 総合的に評価する。									
【教科書】									
薬学専門実習書									
【参考書等】									
必要に応じてプリントを配布する。									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科総合研究棟4階中山教授室 (対応者: 中山和久 内線4527)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は生体情報薬学実習となります。</p>									



授業科目名 (英訳)	基盤薬品動態医療薬学実習 (薬品動態医療薬学実習) <Laboratory Practice in Basic Pharmacodynamic and Pharmacological Sciences (Advanced Methods in Pharmacodynamic and Pharmacological Sciences)>			担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・赤池昭紀、准教授・久米利明、助教・ 泉 安彦、教授・橋田 充、准教授・山下富 義、講師・川上 茂				
配当学年	1・2回生	単位数	1	開講期	通年	曜時限		授業形態	実習
[授業の概要・目的]									
<p>(目的)薬品作用解析学、薬物動態学、ファーマコキネティクスに関する基礎的実験法と考え方、および実験の立案能力や指導法の習得をめざす。</p> <p>(概要)薬学部学生に対する薬学専門実習3における薬理学領域、薬剤学に関連する実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導を行う。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>第1回～第2回 実習内容の立案と計画 薬理学、薬剤学に関連する実習内容の立案と実験計画</p> <p>第3回～第4回 予習と予備実験 薬理学、薬剤学に関連する実習内容を学部学生に説明するための予習、実験計画の妥当性を評価するための予備実験</p> <p>第5回～第14回 実習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラット血圧測定実験と自律神経作用薬の作用の解析</li> <li>・ラット摘出心房標本に対する自律神経作用薬、イオンチャネル作用薬の作用解析</li> <li>・ラット摘出回腸標本に対するアセチルコリンおよびベラパミルの作用解析</li> <li>・鎮痛薬の効力検定法に関する実験と解析演習</li> <li>・マウス一般行動観察による薬効評価に関する実験と解析演習</li> <li>・医薬品の安定性に関する実験と解析演習</li> <li>・ラットを用いた薬物の消化管吸収に関する実験と機構解析</li> <li>・動物実験データに基づいたファーマコキネティック解析</li> <li>・クリアランス理論に基づく薬物動態シミュレーション</li> <li>・内用固形剤の崩壊性・溶出性に関する実験と解析</li> </ul> <p>第15回 実習成果発表と総合討論 薬理学、薬剤学に関連する実習成果の発表と総合討論</p>									
[履修要件]									
[成績評価の方法・基準]									
<p>実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さをみて総合的に評価する。</p>									
[教科書]									
薬学専門実習書									
[参考書等]									
適宜、プリントを配布する。									
[その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)]									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける</p> <p>場所: 総合研究棟1階 薬品作用解析学分野教授室(赤池教授)</p> <p>場所: 総合研究棟2階 薬品動態制御学分野教授室(橋田教授)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は薬品動態医療薬学実習となります。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤病態機能解析学実習(病態機能解析学実習) <Laboratory Practice in Basic Pharmacodynamic Sciences (Advanced Methods in Pharmacodynamic Sciences)>				担当者氏名 (所属名がない場合は薬学研究科所属)	教授・佐治英郎、教授・高倉喜信、准教授・小野正博、准教授・西川元也、助教・天満敬、助教・高橋有己			
配当学年	1・2回生	単位数	1	開講期	通年	曜時限		授業形態	実習
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的) 分子イメージング学、病態機能解析学、薬物動態学、ファーマコキネティクスに関する基礎的実験法と考え方、および実験の立案能力や指導法の習得をめざす。</p> <p>(概要) 薬学部学生に対する薬学専門実習4における放射化学領域、臨床分析化学、薬剤学に関連する実習指導を行う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>1. 実習内容の立案と計画 放射化学領域、臨床分析化学、薬剤学に関連する実習内容の立案と実験計画</p> <p>2. 予習と予備実験 放射化学領域、臨床分析化学、薬剤学に関連する実習内容について学部学生に説明するための予習、実験計画の妥当性を評価するための予備実験</p> <p>3. 実習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線・放射性物質の安全取扱と管理学に関する実験</li> <li>・放射線測定に関する実験と解析演習</li> <li>・放射性医薬品の調製に関する実験</li> <li>・放射性生体分子イメージングに関する実験と解析演習</li> <li>・光生体分子イメージングに関する実験</li> <li>・生理活性物質・薬物の定量測定に関する実験と解析演習</li> <li>・医薬品の安定性に関する実験と解析演習</li> <li>・ラットを用いた薬物の消化管吸収に関する実験と機構解析</li> <li>・動物実験データに基づいたファーマコキネティック解析</li> <li>・クリアランス理論に基づく薬物動態シミュレーション</li> <li>・内用固形剤の崩壊性・溶出性に関する実験と解析</li> </ul> <p>4. 実習成果発表と総合討論 放射化学領域、臨床分析化学、薬剤学に関連する実習成果の発表と総合討論</p>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さをみて総合的に評価する。									
〔教科書〕									
薬学専門実習書									
〔参考書等〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 薬学研究科総合研究棟4階病態機能分析学分野教授室 (対応者: 佐治英郎 内線4556)</p> <p>場所: 薬学研究科総合研究棟2階病態情報薬学分野教授室 (対応者: 高倉喜信 内線4615)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は病態機能分析学実習、病態情報薬学実習となり、病態機能分析学分野、病態情報薬学分野の学生には必修の演習科目です。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤精密有機合成化学実習 (精密有機合成化学実習) <Laboratory Practice in Basic Fine Organic Synthesis (Advanced Methods in Organic Chemistry and Molecular Recognition)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	化学研究所 教授 川端猛夫 化学研究所 准教授 古田巧			
配当学年	1・2回生	単位数	1	開講期	通年	曜時限		授業形態	実習
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的) 有機合成化学、機器分析、分子認識、計算化学に関する基礎的実験法とその原理、及びその指導法を習熟させる。</p> <p>(概要) 実験操作の安全性と研究環境での法的遵守義務を学んだ上で、有機化合物や有機金属化合物の取扱法、合成法、分離精製法、構造解析、機能解析、理論計算の原理と実験法、及びその指導法の修得に努める。</p>									
<p>第1回 安全講習会 実験操作と実験室での安全、化学薬品の取り扱い、研究環境での法的遵守義務について習得する。</p> <p>第2回～第5回 有機合成化学の実験方法 有機合成の基本操作法、有機化合物の分離精製法、および禁水、禁酸素化合物、有機金属化合物、有毒化合物の取扱法とその指導法の習得。</p> <p>第6回～第8回 機器分析の実験方法 核磁気共鳴スペクトル、紫外線吸収スペクトル、円二色性スペクトル、質量スペクトル、赤外線吸収スペクトル、蛍光スペクトルの測定及び解析実習、高速液体クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィーを用いる分析法の得習、および光学活性化合物の定性、取扱法とその指導法の習得。</p> <p>第9回～第11回 分子認識研究の実験方法 紫外線吸収スペクトルを用いる会合定数の評価法、核磁気共鳴スペクトルを用いる会合定数の評価法、および微量熱量測定による会合定数の評価法とその指導法の習得。</p> <p>第12回～第14回 計算化学 分子力場法及び分子軌道法による分子モデリング、及び分子軌道法による反応遷移状態解析法とその指導法の習得。</p> <p>第15回 実習成果発表と総合討論 有機合成化学、分子認識、および計算化学に関連する実習成果の発表と総合討論。</p>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
実習に取り組む姿勢、実習内容の習得度、指導法の適切さ等をもて総合的に評価する。									
〔教科書〕									
安全講習会用プリント、実験化学講座									
〔参考書等〕									
有機合成法および機器分析関連の専門書、機器使用マニュアル									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 在室時はいつでも可 川端猛夫: 場所、化学研究所3011号室 電話: 0774-38-3190(内線17-3190)、E-mail: kawabata@scl.kyoto-u.a.jp 古田巧: 場所、化学研究所4001号室 電話: 0774-38-3191(内線17-3191)、E-mail: furuta@fos.kuicr.kyoto-u.a.jp コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は精密有機合成化学実習となります。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤生体機能化学実習(生体機能化学実習) <Laboratory Practice in Basic Biofunctional Chemistry(Advanced Methods in Biofunctional Chemistry)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	化学研究所教授・二木史朗、化学研究所助 教・今西未来、化学研究所助教・中瀬生彦			
配当学年	1・2回生	単位数	1	開講期	通年	曜時限		授業形態	実習
〔授業の概要・目的〕									
<p>生体機能化学に関する実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の指導を行う。生体機能化学に関連する研究を行う上での基礎的実験法と考え方、および実験の立案能力や指導法の習得をめざす。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>第1回～第2回 実習内容の立案と計画 (二木史朗)  生体機能化学に関する実習内容の立案と実験計画  第3回～第4回 予習と予備実験 (二木史朗)  生体機能化学に関する実習内容について学部学生に説明するための予習、実験計画の妥当性を評価するための予備実験  第5回～第14回 実習指導 (今西未来、中瀬生彦)  ・タンパク質の遺伝子工学的手法による調製  ・転写因子タンパク質のDNA認識と転写活性の測定  ・細胞の基本的な取扱と顕微鏡観察法  ・ペプチドの化学合成法ならびにタンパク質の化学的修飾法  ・生体膜とペプチド・タンパク質の相互作用解析法  第15回 実習成果発表と総合討論 (二木史朗)  生体機能化学に関する実習成果の発表と総合討論</p>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実験、実習指導などの状況や適切さをみて総合的に評価する。									
〔教科書〕									
特に定めない。									
〔参考書等〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。 場所: 化学研究所本館4階二木教授室 (対応者: 二木史朗 内線 宇治3210)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は生体機能化学実習となります。</p>									

授業科目名 (英訳)	基盤医療薬剤学実習(医療薬剤学実習) <Laboratory Practice in Basic Clinical Pharmacy (Advanced Methods in Clinical Pharmacy)>					担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	准教授・桂 敏也、講師・増田智先、助教・本 橋秀之、助教・福土将秀、助教・米澤 淳		
配当学年	1, 2年次	単位数	1単位	開講期	通年	曜時限		授業形態	実習
〔授業の概要・目的〕									
疾患時の薬物体内動態、薬物間相互作用、医薬品投与設計に関する基礎的実験法およびその指導法を習熟させる。									
〔授業計画と内容〕									
<p>1) 薬物体内動態学に関する実験方法と指導法の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小動物を用いた薬物体内動態に関する実験と解析</li> <li>・疾患モデル動物の作成と疾患時の薬物体内動態変動に関する実験と機構解析</li> <li>・摘出臓器灌流法を用いた薬物排泄に関する実験と機構解析</li> <li>・疾患モデル動物を用いた薬物毒性発現機構の解析</li> <li>・ポピュレーションファーマコキネティクスとベイジアン推定による患者個別投与設計に関する演習</li> </ul> <p>2) 薬物動態制御因子に関する実験方法と指導法の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・培養腸上皮細胞を用いた薬物吸収実験と機構解析</li> <li>・培養腎上皮細胞を用いた薬物分泌実験と機構解析</li> <li>・遺伝子発現系による薬物トランスポータの機能解析</li> <li>・免疫学的手法による薬物トランスポータの組織分布解析</li> <li>・薬物体内動態に関わる機能蛋白質の遺伝子探索と多型解析</li> <li>・疾患動物における薬物代謝酵素、薬物トランスポータの発現変動解析</li> </ul>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
実習内容の立案と計画、実習指導などの状況や適切さを見て総合的に評価する。									
〔教科書〕									
特になし									
〔参考書等〕									
特になし									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。連絡先: 桂 敏也 内線16-3590)</p> <p>コメント: 創薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬科学専攻の学生にとって、科目名は医療薬剤学実習となります。</p>									

授業科目名 (英訳)		ゲノム創薬概論 <Introduction to Genome-based Drug Discovery>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・辻本豪三、准教授・平澤明、他		
配当学年	1回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	講義	
【授業の概要・目的】										
<p>ゲノム創薬とは、ヒトゲノムシーケンス後の遺伝子多型(ゲノム)、遺伝子発現プロファイル(トランスクリプトーム)、プロテオームにおける包括的機能解析を基礎に、ヒトゲノム上の総ての新しい創薬ターゲットを効率よく探索し、新しい薬物療法を可能にするだけでなく、患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適薬物療法(テーラーメイド医療)を実現するものである。ゲノム、トランスクリプトーム、プロテオームの生物学的な背景、ゲノム計画、ゲノムテクノロジー更にはバイオインフォマティクスの活用について、特に創薬科学的観点から概説する。個別の研究についても講説する。</p>										
【授業計画と内容】										
<p>授業計画</p> <p>第1回 大学院における薬学の研究と教育の現状  第2回 大学院における薬学の研究と教育の将来像  第3回 ゲノム創薬科学と薬理ゲノミクスの概要  第4回 ゲノム創薬科学と薬理ゲノミクスの詳細解説  第5回 ゲノム創薬科学とケモゲノミクスの概要  第6回 ゲノム創薬科学とケモゲノミクスの詳細解説  第7回 ゲノム創薬科学とテーラーメイド医療の概要  第8回 ゲノム創薬科学とテーラーメイド医療の詳細解説  第9回 臨床研究の現状の概要  第10回 臨床研究の現状の詳細解説  第11回 医療現場におけるトピック、問題点の概要  第12回 医療現場におけるトピック、問題点の詳細解説  第13回 医薬品開発過程におけるゲノム創薬その1  第14回 医薬品開発過程におけるゲノム創薬その2  第15回 総合討論</p>										
【履修要件】										
なし										
【成績評価の方法・基準】										
講義への出席状況、講義内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。										
【教科書】										
必要に応じてプリントを配布する。										
【参考書等】										
講義内容に応じて指定する場合がある。										
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】										
<p>オフィスアワー:ゲノム創薬概論の講義終了後(他の時間でも予約すれば可)  場所:薬学研究科総合研究棟3階ゲノム創薬科学分野辻本教授室 (対応者:辻本豪三 内線4523)</p>										

授業科目名 (英訳)	医薬創成プロセス概論 <Introduction to Drug Discovery Sciences>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・掛谷秀昭、准教授・服部明、講師・大石真也、助教・西村慎一、他			
配当学年	1回生	単位数	2	開講期	前期・集中	曜時限	金1	授業形態	講義
〔授業の概要・目的〕									
<p>医薬品創成プロセスの基本となる有機化学、合成化学、医薬品化学、天然物化学、生薬学などの分野の概要に関して、各分野の教員や、製薬企業等からの非常勤講師が講義を行う。</p> <p>医薬創成情報科学専攻において、化学系薬学を学ぶ学生に対する導入講義。医薬品創成プロセスの基本となる有機化学、合成化学、医薬品化学、天然物化学、生薬学などの研究分野に関する研究背景を紹介し、基礎的な知識の習得と研究活動の基盤の確立を目指す。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>第1～2回 有機化学の基本概念  第3～4回 有機化合物の反応と合成  第5～8回 天然物化学・漢方薬・生薬に関する最近の話題  第9～11回 キラルテクノロジー・グリーンケミストリー  第12～13回 創薬研究におけるプロセス化学  第14～15回 製薬企業における医薬創成プロセス研究の現状と展望</p>									
〔履修要件〕									
特になし									
〔成績評価の方法・基準〕									
出席状況、授業ノート、講義中に課すレポートなどを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリント等を配布する。									
〔参考書等〕									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Nature, Science, J. Am. Chem. Soc.をはじめとする化学・生物学分野を対象とした学術雑誌</li> <li>・「インシリコ創薬科学-ゲノム情報から創薬へ-」(京都廣川書店)</li> </ul>									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連分野の最先端の動向についても紹介します。</li> <li>・事前にtel/mail(掛谷; 内4524, hkakeya@pharm.kyoto-u.ac.jp, 大石; 内9268, soishi@pharm.kyoto-u.ac.jp)</li> </ul>									

授業科目名 (英訳)		情報科学概論 <Introduction to Bioinformatics>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		化学研究所教授・馬見塚 拓、化学研究所 助教・瀧川一学、化学研究所助教・志賀元 紀		
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火4	授業形態	講義	
〔授業の概要・目的〕										
<p>本授業は、修士課程において医薬創成情報科学を専攻する学生の中で薬学等の生命科学系の学部出身学生に対する情報科学全般に渡る講義である。より具体的には、情報科学技術全般を、主に情報科学基礎、統計科学、アルゴリズム、知識科学に分け、それぞれの分野の概要に関して、医学・薬学と関連付けつつ概観する。必要に応じて専門分野の非常勤講師が授業をおこなう。全体に関して計算機を用いた演習をも行い、講義で得た知識を体得する。これらを通じて、情報科学の基礎技術からバイオインフォマティクスやケモインフォマティクスに必要な応用技術の習得を目指す。</p>										
〔授業計画と内容〕										
<p>授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第 1回 情報科学基礎、特に基礎統計学の概要</li> <li>第 2回 情報科学基礎、特にアルゴリズムとデータ構造の概要</li> <li>第 3回 情報科学基礎、特にプログラミング言語の概要</li> <li>第 4回 統計科学、特に多変量解析の概要と医学・薬学での研究概要</li> <li>第 5回 統計科学、特に計算統計の概要と医学・薬学での研究概要</li> <li>第 6回 統計科学、特に統計モデルと時系列解析技術の概要と医学・薬学での研究概要</li> <li>第 7回 アルゴリズム、特に情報理論関連技術の概要と医学・薬学での研究概要</li> <li>第 8回 アルゴリズム、特に文字列とグラフに対する技術の概要と医学・薬学での研究概要</li> <li>第 9回 アルゴリズム、特に数値解析と最適化技術の概要と医学・薬学での研究概要</li> <li>第10回 知識科学、特に知識工学と推論技術の概要と医学・薬学での研究概要</li> <li>第11回 知識科学、特に機械学習の概要と医学・薬学での研究概要</li> <li>第12回 知識科学、特にデータベースの概要と医学・薬学での研究概要</li> <li>第13回 統計科学に関する計算機演習</li> <li>第14回 アルゴリズムに関する計算機演習</li> <li>第15回 知識科学に関する計算機演習</li> </ul>										
〔履修要件〕										
なし										
〔成績評価の方法・基準〕										
講義内容をもとに課す課題に対するレポートを中心に評価するが、場合に応じて出席状況を加味し総合的に評価する。										
〔教科書〕										
講義資料を配布する										
〔参考書等〕										
講義内容に応じて指定する場合がある。										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
<p>オフィスアワー: 情報科学概論の講義終了後(他の時間でも予約すれば可) 場所: 化学研究所総合研究実験棟3階CB324 (対応者: 馬見塚 拓 内線宇治3023)</p>										



授業科目名 (英訳)		情報科学技術 <Introduction to Information Sciences>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・北浦和夫	
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	集中	授業形態	講義
〔授業の概要・目的〕									
<p>(目的) 薬学研究実験の基本となるさまざまな実験に関する知識を身につけ、これらにおいて情報科学技術を活用するための知識と技術を習得する。</p> <p>(概要) 薬学研究の基盤的実験技術、化合物の取り扱い法や分析機器による測定法について学習し、これらの実験研究における情報科学技術の活用に関する教育を行う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>第1回 導入講義</p> <p>第2回 情報科学技術概論1: コンピュータ</p> <p>第3回 情報科学技術概論2: インターネット</p> <p>第4回 情報科学技術概論3: データベース</p> <p>第5回 構造生物学・分子構造学実験技術の概要</p> <p>第6回 構造生物学における情報科学技術の活用</p> <p>第7回 生体コロイド科学・界面科学実験技術の概要</p> <p>第8回 生体コロイド科学・界面科学実験における情報科学技術の活用</p> <p>第9回 生物物理化学実験技術の概要</p> <p>第10回 生物物理化学実験における情報科学技術の活用</p> <p>第11回 臨床分析化学・放射化学実験技術の概要</p> <p>第12回 臨床分析化学・放射化学実験における情報科学技術の活用</p> <p>第13回 分光実験技術の概要</p> <p>第14回 分光実験技術における情報科学技術の活用</p> <p>第15回 総合討論</p>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
講義や実習への出席状況、講義や実習内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
講義内容に応じて指定する場合がある。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。</p> <p>場所: 薬学研究科総合研究棟1階システムケモセラピー(創薬計算化学)分野教授室 (対応者: 北浦和夫 内線9561)</p>									

授業科目名 (英訳)	生命科学概論 <Introduction to Life Sciences(Introduction to Modern Life Sciences)>					担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・岡村均、講師・土居雅夫、他			
配当学年	1回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火2	授業形態	講義	
〔授業の概要・目的〕										
<p>生命科学および薬学の基礎概論。生命にとっての普遍的な現象と薬物開発の方法論を講じ、生体を理論的、実証的に解明する。情報系・理論系の学部出身者が基礎生命科学を理解できるようにする。生命科学の授業各分野の教員や、必要に応じて病院や企業などからの非常勤講師が講義を行う。</p>										
〔授業計画と内容〕										
<p>授業計画  第1回 生命と非生命と生命科学  第2回 大学院における生命科学の研究の現状  第3回 生命科学の薬学と医療における位置づけ  第4回 生理活性物質の動態  第5回 薬物動態  第6回 時間、老化と薬学と生命  第7回 生命科学から新規医療開発の方法  第8回 生命科学から薬物開発の方法  第9回 システムバイオロジーから見た生命科学、薬学の研究方法  第10回 脳・神経科学の生命科学、薬学の研究方法  第11回 生命ゲノミクスを利用した生命科学、薬学の研究方法  第12回 ケモゲノミクスを利用した生命科学、薬学の研究方法  第13回 トランスクリプトームを利用した生命科学、薬学の研究方法  第14回 時間軸から見た生命科学、薬学の研究方法  第15回 総合討論</p>										
〔履修要件〕										
〔成績評価の方法・基準〕										
<p>講義や実習への出席状況、講義や実験内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。</p>										
〔教科書〕										
<p>必要に応じてプリントを配布する。</p>										
〔参考書等〕										
<p>講義内容に応じて指定する場合がある。</p>										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
<p>自分で調べ、実験したことは、必ずよくまとめて、決められた時間内に発表できるように、よく準備しておくこと。  オフィスアワー: 在室の時にはいつでも可。  事前連絡方法: 電話。場所: 別館4階(岡村・土居、内線9552)</p>										

授業科目名 (英訳)	生命科学技術 <Experimental Technology in Life Sciences>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	准教授・平澤明			
配当学年	1回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	集中	授業形態	講義
〔授業の概要・目的〕									
<p>(授業の到達目標及びテーマ)  情報系・理論系の学部出身者のための生命科学の基礎技術を学ぶ。基礎生命科学実験および医薬品開発の基本となる遺伝子工学、蛋白質化学、細胞生物学、生理学、薬理学、微生物学などの分野に関して、安全で適確な実験操作を行うための基礎知識と実践的スキルを習得する。</p> <p>(授業の概要)  生命科学の実験の基本となる遺伝子工学、蛋白質化学、細胞生物学、生理学、薬理学、微生物学などに関して、講義と演習を組み合わせる教育を行う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>第1回～第7回 生命科学領域の実験技術の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化合物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・微生物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・動物の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・組換えDNAの実験技術と安全な取扱い</li> <li>・放射性同位元素の取扱技術と安全な取扱い</li> <li>・インターネットやデータベースの活用技術</li> <li>・廃棄物や排水の処理法と環境配慮</li> </ul> <p>第8回 遺伝子・ゲノム科学の基礎実験技術  第9回 RNA・トランスクリプトーム解析の基礎実験技術  第10回 蛋白質化学・プロテオミクス解析の基礎実験技術  第11回 細胞生物学・分子イメージングの基礎実験技術  第12回 生理活性物質・メタボローム解析の基礎実験技術  第13回 脳・神経科学の基礎実験技術  第14回 全身機能・病態解析の基礎実験技術  第15回 総合討論</p>									
〔履修要件〕									
〔成績評価の方法・基準〕									
講義や実習への出席状況、講義や実験内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
講義内容に応じて指定する場合がある。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 生命科学技術の講義終了後(他の時間でも予約すれば可)  場所: 薬学研究科総合研究棟3階薬理ゲノミクス分野 (対応者: 平澤 明)</p>									

授業科目名 (英訳)		創薬標的探索理論 <Bioinformatics I: Target Discovery>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		化学研究所教授・金久實、准教授・五斗進		
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火4	授業形態	講義	
【授業の概要・目的】										
<p>(目的) バイオインフォマティクスの概念と方法論を概説し、創薬インフォマティクス、とくに創薬標的探索に応用する。</p> <p>(概要) 日本バイオインフォマティクス学会策定の大学院教育カリキュラムに基づき、配列解析、タンパク質立体構造解析、分子シミュレーション、ゲノム解析、ネットワーク解析、ケモインフォマティクスなどを、創薬科学の観点から概説する。</p>										
【授業計画と内容】										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 創薬標的探索とバイオインフォマティクス</li> <li>2. 配列解析・比較ゲノム解析</li> <li>3. タンパク質立体構造解析</li> <li>4. 転写ネットワーク解析</li> <li>5. 代謝ネットワーク解析</li> <li>6. ケモインフォマティクス</li> <li>7. 糖鎖インフォマティクス</li> <li>8. 天然物インフォマティクス</li> <li>9. 創薬分子設計</li> <li>10. ゲノム創薬</li> </ol> <p>1課題あたり1～2週の授業をする予定</p>										
【履修要件】										
<p>成績評価の方法・基準】</p> <p>レポート、出席により評価する。</p>										
【教科書】										
<p>用意した講義プリントを各講義のはじめに配布する。</p>										
【参考書等】										
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】										
<p>オフィスアワー: 創薬標的探索理論の講義終了後(他の時間でも予約すれば可) 場所: 宇治キャンパス総合研究実験棟CB219 統合ゲノミクス分野教授室(対応者: 金久 實 内線宇治3270)</p>										

授業科目名 (英訳)		創薬リード探索理論 <Bioinformatics II : Lead Discovery>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究所所属)		教授・岡村 均 講師・土居雅夫	
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火1	授業形態	講義
〔授業の概要・目的〕									
<p>遺伝子・ゲノム科学、システム生物学、バイオインフォマティクス、分子生物学、細胞生物学、神経科学、発生生物学、脂質生物学、などの多角的な観点から創薬リード探索に必要な論理と手法を学ぶ。種々の疾患に対して病態を分子レベルで評価し、創薬リード探索の基礎を構築する。必要に応じて製薬企業などからの非常勤講師が講義を行う。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>第1回 創薬リード探索理論 導入講義  第2回 バイオインフォマティクスを用いた創薬リード探索  第2回 多因子疾患に対するシステム生物学的アプローチ  第3回 G蛋白質共役型受容体を介したシグナル伝達と創薬  第4回 遺伝子発現調節・クロマチンリモデリングと創薬  第5回 カルシウムシグナルの分子構築と創薬  第6回 小胞体タンパク質群の構造と創薬  第7回 細胞膜脂質の生理機能と創薬  第8回 メンブレントラフィックの調節機構と創薬  第9回 脂質性シグナル伝達の生理機能と創薬  第11回 細胞分裂の調節機構と発癌の分子病態  第12回 糖尿病・肥満・メタボリックシンドロームの分子病態  第13回 高血圧・心血管性疾患の分子病態  第14回 神経性不全・睡眠障害の分子病態  第15回 創薬リード探索の今後の課題と総合討論</p>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
講義への出席状況、講義内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
講義内容に応じて指定する場合がある。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー：在室の時にはいつでも可。事前連絡方法：電話。  場所：別館4階 岡村(内線9552)・土居(内線9554)</p>									

授業科目名 (英訳)		臨床開発理論 <Bioinformatics III: Clinical Studies>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究所所属)		准教授・平澤明	
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水1	授業形態	講義
〔授業の概要・目的〕									
<p>(授業の到達目標及びテーマ) 臨床段階における医薬品候補との薬理効果、安全性、投薬設計などの臨床統計・コンピュータシミュレーションの理論や個別化医療に必要な計算理論を学ぶ</p> <p>(授業の概要)          医薬品の時間薬理作用          医薬品の投与設計と時間治療          情報検索による医薬品及び生体活性物質の転写調節機構          時間治療を目指すための開発理論</p>									
〔授業計画と内容〕									
第1回 薬物動態学研究の基礎 第2回 薬物動態学研究の基礎と応用 第3回 薬物動態的解析法 第4回 薬物動態的解析法における最近の進歩 第5回 転写因子の分子生物学 第6回 転写因子と薬物動態 第7回 トランスポータの分子生物学 第8回 トランスポータと薬物動態 第9回 タンパク質の細胞選択的デリバリー 第10回 遺伝子の細胞選択的デリバリー 第11回 薬物動態予測のための情報科学の基礎 第12回 薬物動態予測のための情報科学的アプローチ 第13回 ドラッグデリバリーシステムと遺伝子治療 第14回 ドラッグデリバリーシステムにおける最新技術 第15回 総合討論									
〔履修要件〕									
〔成績評価の方法・基準〕									
講義への出席状況、講義内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
講義内容に応じて指定する場合がある。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
オフィスアワー: 臨床開発理論の講義終了後(他の時間でも予約すれば可) 場所: 薬学研究所総合研究棟3階薬理ゲノミクス分野 (対応者: 平澤 明)									

授業科目名 (英訳)		創薬標的探索技術 <Drug Discovery & Development I : Target Discovery Technology>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・北浦和夫、エネルギー科学研究科教授・八尾健、工学研究科教授・白川昌宏、大阪大学薬学研究科教授・宇野公之、大阪大学蛋白質研究所教授・高木淳一、京都薬科大学教授・安井裕之、(独)産業技術総合研究所主任研究員・須丸公雄		
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金2	授業形態	講義	
〔授業の概要・目的〕										
<p>(目的)最新の物理化学的方法論とその研究成果について学習し、これらを創薬研究に活用するために必要な知識を習得する。</p> <p>(概要)構造生物学、生体コロイド科学、生物物理化学、分子イメージング、生物無機化学など物理系薬学領域の最新の研究成果を紹介し、これらを創薬研究に活用するための教育を行う。</p>										
〔授業計画と内容〕										
<p>第1回 創薬研究における物理化学概論</p> <p>第2回 創薬研究における物理化学の最新の研究成果</p> <p>第3回 生物物理化学領域概論</p> <p>第4回 生物物理化学領域における最新の研究成果</p> <p>第5回 生物物理化学領域における研究成果の創薬研究への応用</p> <p>第6回 構造生物学領域概論</p> <p>第7回 構造生物学領域概論における最新の研究成果</p> <p>第8回 構造生物学領域概論における研究成果の創薬研究への応用</p> <p>第9回 生体コロイド科学領域概論</p> <p>第10回 生体コロイド科学領域における最新の研究成果</p> <p>第11回 生体コロイド科学領域における研究成果の創薬研究への応用</p> <p>第12回 生体分子イメージング概論</p> <p>第13回 生体分子イメージングの最新の研究成果</p> <p>第14回 生体分子イメージングの創薬研究への応用</p> <p>第15回 創薬標的探索研究への応用についての総合討論</p>										
〔履修要件〕										
なし										
〔成績評価の方法・基準〕										
講義への出席状況、課題に対するレポートなどを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
必要に応じてプリントを配布する。										
〔参考書等〕										
講義内容に応じて指定する場合がある。										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
<p>オフィスアワー: 創薬標的探索技術の講義終了後(他の時間でも予約すれば可)</p> <p>場所: 薬学研究科総合研究棟1階システムケモセラピー(創薬計算化学)分野教授室 (対応者: 北浦和夫 内線9561)</p>										

授業科目名 (英訳)		創薬リード探索技術 <Drug Discovery & Development II: Lead Discovery Technology>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・掛谷秀昭、准教授・服部明、 講師・大石真也、助教・西村慎一	
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木1	授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
<p>(目的) 化学と生物学にまたがる融合領域に関する最先端の研究について理解を深め、主に医薬品探索に用いられる化合物の分子設計・化学合成技術と化合物の生物活性を評価するための基盤技術に関する知識と理論を習得することを目的とする。</p> <p>(概要) 医薬品のリード化合物探索に関連する研究・技術に関する最新のトピックスを紹介するとともに、リード化合物探索に不可欠な化合物の供給に関連する基盤技術とその理論を、有機合成化学・医薬品化学・天然物化学を中心に講義する。また、化合物の評価に関連する分子生物学・細胞生物学の技術や、ゲノム関連科学やスクリーニングから得られる情報の活用法についても紹介し、リード化合物探索に関連する一連のプロセスを概説する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回～第3回 創薬探索に用いられる化合物の化学合成技術の基礎と応用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有機金属化学の基礎理論と創薬研究における実践例の紹介</li> <li>・ 医薬品として好ましい性質を有する化合物の分子設計と効率的合成法</li> <li>・ 効率的な構造最適化研究を実現するための新しい化学合成技術の理論と応用</li> </ul> <p>第4回 核酸・脂肪酸・糖類からの分子設計と創薬</p> <p>第5回 アミノ酸・ペプチド・タンパク質からの分子設計と創薬</p> <p>第6回 天然由来の化合物(二次代謝産物)の単離・構造決定技術</p> <p>第7回 天然由来の化合物からの医薬品の創製の実践例</p> <p>第8回～第10回 化合物の生物活性評価(分子生物学からのアプローチ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 酵素を標的とする化合物の探索技術とその応用例</li> <li>・ 受容体を標的とする化合物の探索技術とその応用例</li> <li>・ イオンチャネルやその他の生体分子を標的とする化合物の探索技術と応用例</li> </ul> <p>第11回 細胞の機能を指標とする化合物の生物活性評価</p> <p>第12回 細胞・組織の表現型を指標とする化合物の生物活性評価</p> <p>第13回 化合物ライブラリーの概要と創薬における実践(種類・供給・整理法・応用例)</p> <p>第14回 創薬リード探索におけるデータベースの活用</p> <p>第15回 補講と総合討論</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
講義への出席状況、授業ノート、講義中に課すレポートなどを総合的に評価する。									
【教科書】									
必要に応じてプリントを配布する。									
【参考書等】									
講義内容に応じて指定する場合がある。									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前にtel/mail (掛谷; 内4524, hkakeya@pharm.kyoto-u.ac.jp, 大石; 内9268, soishi@pharm.kyoto-u.ac.jp)</li> </ul>									



授業科目名 (英訳)		臨床開発技術 <Drug Discovery & Development III : Clinical Development Process>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		准教授・平澤明	
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水1	授業形態	講義
〔授業の概要・目的〕									
<p>(授業の到達目標及びテーマ) 臨床段階における医薬品候補の薬理効果、安全性、投薬設計などの医療現場技術や個別化医療に必要な医療技術の原理を学ぶ</p> <p>(授業の概要) 開発研究を通じて得られた医薬品候補化合物の薬理効果、安全性などを評価する実験技術の原理を学ぶ。臨床段階での診断、投薬設計などの医療現場技術の原理や個別化医療に必要な医療技術原理を学ぶ。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>第1回 薬理ゲノミクス 第2回 薬物体内動態における遺伝子多型 第3回 薬物感受性に関する遺伝子多型 第4回 薬理ゲノミクスを基礎としたテーラーメイド医療 第5回 薬理ゲノミクスの臨床開発への応用 第6回 薬理ゲノミクスにおける解析技術と経済性 第7回 イオンチャネルの生理、薬理 第8回 Gタンパク共役型受容体の生理、薬理 第9回 1回膜貫通型受容体の生理、薬理 第10回 トランスポーターの生理、薬理 第11回 最新のイオンチャネル研究の紹介と討論 第12回 最新のトランスポーター研究の紹介と討論 第13回 最新の受容体研究の紹介と討論 第14回 最新の薬物依存研究の紹介と討論 第15回 総合討論</p>									
〔履修要件〕									
〔成績評価の方法・基準〕									
講義への出席状況、討論への参加と質問、意見等の適切さを総合的に判断する。									
〔教科書〕									
〔参考書等〕									
適宜、プリントを配布する。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー:臨床開発技術の講義終了後(他の時間でも予約すれば可) 場所:薬学研究科総合研究棟3階薬理ゲノミクス分野 (対応者:平澤 明)</p>									

授業科目名 (英訳)		バイオ情報スキル <Skill Development for Bioinformatics>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	化学研究所教授・金久實、化学研究所准教授・五斗進、化学研究所助教・服部正泰			
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	実習	
〔授業の概要・目的〕										
<p>(目的)生命科学の大量かつ多様なデータを扱うバイオインフォマティクスの概念と方法論を概説し、創薬科学への応用技術を修得する。</p> <p>(概要)バイオインフォマティクスの基礎技術である、配列解析、タンパク質立体構造解析、ゲノム解析、ネットワーク解析、ケモインフォマティクスなどを、創薬科学の観点から概説する。</p>										
〔授業計画と内容〕										
<p>第1回 配列解析:アライメント、配列DB検索、</p> <p>第2回 配列解析:モチーフ解析、配列シグナル解析</p> <p>第3回 配列解析:配列DB、進化モデル</p> <p>第4回 タンパク質立体構造解析:構造表現、構造比較</p> <p>第5回 タンパク質立体構造解析:相互作用解析、二次構造等の予測</p> <p>第6回 タンパク質立体構造解析:三次構造予測、構造DB</p> <p>第7回 ゲノム情報解析:アノテーション、ゲノム・オントロジー</p> <p>第8回 ゲノム情報解析:ゲノムDB、ゲノム特徴解析</p> <p>第9回 ゲノム情報解析:ゲノム進化解析、ゲノム機能解析</p> <p>第10回 ネットワーク解析:代謝工学、ネットワーク特徴解析</p> <p>第11回 ネットワーク解析:ネットワーク比較、パスウェイDB</p> <p>第12回 ネットワーク解析:異種データ統合解析、シミュレーション</p> <p>第13回 ケモインフォマティクス:構造表現、化学構造比較・解析</p> <p>第14回 ケモインフォマティクス:糖鎖構造比較・解析、化学反応予測</p> <p>第15回 ケモインフォマティクス:相互作用解析、化合物・医薬品DB</p>										
〔履修要件〕										
〔成績評価の方法・基準〕										
レポート、出席により評価する。										
〔教科書〕										
〔参考書等〕										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
<p>オフィスアワー:バイオ情報スキルの講義終了後(他の時間でも予約すれば可)</p> <p>場所:宇治キャンパス総合研究実験棟CB219 統合ゲノミクス分野教授室(対応者:金久 實 内線16-3270)</p>										

授業科目名 (英訳)		ケミカル情報スキル <Skill Development for Chemoinformatics>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		化学研究所教授・馬見塚 拓、化学研究所 助教・瀧川一学、化学研究所助教・志賀元 紀		
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	講義	
〔授業の概要・目的〕										
<p>修士課程において医薬創成情報科学を専攻する学生に対して、創薬インフォマティクスに不可欠な情報処理技術、すなわちバイオインフォマティクスおよびケミカルインフォマティクスの諸技術に関する背景技術と基礎的知識を実際の演習を通じ習得することを概要・目的とする。</p>										
〔授業計画と内容〕										
<p>授業計画</p> <p>第1回 大学院におけるバイオインフォマティクス研究の位置づけと現状</p> <p>第2回 大学院におけるケモインフォマティクス研究の位置づけと現状</p> <p>第3回 配列アライメント技術の研究概要</p> <p>第4回 配列アライメント技術の演習</p> <p>第5回 配列マッチング技術の研究概要</p> <p>第6回 配列マッチング技術の演習</p> <p>第7回 立体構造解析技術の研究概要</p> <p>第8回 立体構造解析技術の研究詳細解説</p> <p>第9回 立体構造解析技術の演習</p> <p>第10回 機械学習・知識発見技術の研究概要</p> <p>第11回 機械学習・知識発見技術の研究詳細解説</p> <p>第12回 機械学習・知識発見技術の演習</p> <p>第13回 ランダムアルゴリズム等統計・確率技術の研究概要・演習</p> <p>第14回 ランダムアルゴリズム等統計・確率技術の研究詳細解説</p> <p>第15回 ランダムアルゴリズム等統計・確率技術の演習</p>										
〔履修要件〕										
なし										
〔成績評価の方法・基準〕										
講義への出席状況、講義内容をもとに課す課題に対するレポート等を総合的に評価する。										
〔教科書〕										
講義資料を配布する。										
〔参考書等〕										
講義内容に応じて指定する場合がある。										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
<p>オフィスアワー:ケミカル情報スキルの講義終了後(他の時間でも予約すれば可)</p> <p>場所:化学研究所総合研究実験棟3階CB324 (対応者:馬見塚 拓 内線宇治3023)</p>										

授業科目名 (英訳)		医療情報スキル <Skill Development for Clinical Informatics>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・北浦和夫	
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	実習
【授業の概要・目的】									
<p>(目的)医療情報にかかわる統計解析法や薬効シミュレーション技術など、医薬品候補の薬理効果、安全性などの評価に必要な情報処理スキルの指導法の習得をめざす。</p> <p>(概要)医療情報データの統計解析と医薬品化合物の薬理効果に関する実習内容の立案と実験計画、実習開始前の予習と予備実験、実習時の学部学生の指導を行う。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回 医療情報の統計解析法と医薬品候補の薬理効果などのシミュレーション手法の学習</p> <p>第2回 医療情報の統計解析法と医薬品候補の薬理効果などのシミュレーション手法の詳細解説</p> <p>第3回 医薬品化合物の物理化学的性質と薬物動態・薬効についての学習</p> <p>第4回 医薬品化合物の物理化学的性質と薬物動態・薬効についての詳細解説</p> <p>第5回～第7回 予習と予備実験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療情報にかかわる情報処理技術に関連する実習内容について説明するための予習</li> <li>・医療情報にかかわる情報処理技術に関連する実験計画の妥当性を評価するための予備実験</li> </ul> <p>第8回～第14回 実習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分子の物理化学的性質のシミュレーションの基礎実習</li> <li>・医薬品分子の物理化学的性質の計算と構造活性相関</li> <li>・医薬品分子とタンパク質の相互作用と特異的認識と薬理効果</li> </ul> <p>第15回 実習成果発表と総合討論</p> <p>医療情報にかかわる情報処理技術に関連する実習成果の発表と総合討論</p>									
【履修要件】									
なし									
【成績評価の方法・基準】									
実習への出席、実習内容の立案と計画、予習と予備実習、実習指導などの状況や適切さをみて総合的に評価する。									
【教科書】									
薬学専門実習書									
【参考書等】									
必要に応じてプリントを配布する。									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
<p>オフィスアワー: 随時受け付ける。</p> <p>場所: 薬学研究科総合研究棟1階システムケモセラピー(創薬計算化学)分野教授室 (対応者: 北浦和夫 内線9561)</p>									

授業科目名 (英訳)		標的遺伝子探索スキル <Skill Development for Target Discovery>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・辻本豪三	
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	実習
〔授業の概要・目的〕									
<p>(概要) 遺伝子発現解析実験や遺伝子操作実験など、創薬の標的遺伝子を探索し同定するために必要な実験スキルを実践修得する。</p> <p>(目的) 疾患の原因となっている遺伝子(医薬品治療の標的となる遺伝子)を探し出すための実験スキルを修得する。</p> <p>探索された疾患の原因となっている遺伝子が、疾患の直接的原因であるか、また医薬品開発の標的遺伝子として最適な対象であるかを評価するための実験スキルを修得する。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>授業計画</p> <p>第1回 ゲノム創薬入門</p> <p>第2回 ゲノム研究とゲノム創薬</p> <p>第3回 創薬ターゲット分子探索</p> <p>第4回 創薬ターゲット分子のバリデーション</p> <p>第5回 ゲノム創薬科学と薬理ゲノミクス</p> <p>第6回 ゲノム創薬科学とトランスクリプトーム解析</p> <p>第7回 トランスクリプトーム解析の現状と展望</p> <p>第8回 ゲノム創薬科学とプロテオーム解析</p> <p>第9回 プロテオーム解析の現状と展望</p> <p>第10回 ゲノム創薬科学とメタボローム解析</p> <p>第11回 メタボローム解析の現状と展望</p> <p>第12回 薬理インフォマティクス研究</p> <p>第13回 ゲノム創薬の最前線・蛋白質リン酸化酵素</p> <p>第14回 ゲノム創薬の最前線・オーファン受容体のリガンド探索</p> <p>第15回 総合討論</p>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
講義への出席状況、課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
講義内容に応じて指定する場合がある。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー: 標的遺伝子探索スキルの講義終了後(他の時間でも予約すれば可)</p> <p>場所: 薬学研究科総合研究棟3階ゲノム創薬科学分野辻本教授室 (対応者: 辻本豪三 内線4523)</p>									

授業科目名 (英訳)		リード化合物探索スキル <Skill Development for Lead Discovery>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・掛谷秀昭、准教授・服部明、准教授・大野浩章、講師・大石真也、助教・西村慎一		
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	実習	
〔授業の概要・目的〕										
<p>医薬品リード化合物の探索方法や活性評価方法、標的分子の同定法、化合物の化学合成法などに加え、これらを可能とする周辺技術の最新知見について紹介し、それに基づく討論を行う。</p> <p>プレゼンテーションとそれに基づく討論等を通じて、化合物スクリーニングや医薬品合成など創薬のリード化合物を探索し、分子設計するために必要な実験スキル、およびその指導法の習得を目指す。</p>										
〔授業計画と内容〕										
<p>第1回 概論</p> <p>第2・3回 リード化合物スクリーニング法確立に関するスキル習得 ・リード化合物スクリーニング法確立に関するスキル習得、プレゼンテーション、及びそれに基づく討論と解説</p> <p>第4・5回 天然資源からのリード化合物の単離・構造決定に関するスキル習得 ・天然資源からのリード化合物の単離・構造決定に関するスキル習得、プレゼンテーション、及びそれに基づく討論と解説</p> <p>第6・7回 リード化合物からの構造活性相関・最適化研究に関するスキル習得 ・リード化合物からの構造活性相関・最適化研究に関するスキル習得、プレゼンテーション、及びそれに基づく討論と解説</p> <p>第8・9回 医薬品の分子標的の同定・評価に関するスキル習得 ・医薬品の分子標的の同定・評価に関するスキル習得、プレゼンテーション、及びそれに基づく討論と解説</p> <p>第10・11回 化合物データベースと化合物ライブラリーの利用に関するスキル習得 ・化合物データベースと化合物ライブラリーの利用に関するスキル習得、プレゼンテーション、及びそれに基づく討論と解説</p> <p>第12・13回 生理活性ペプチドからの創薬研究に関するスキル習得 ・生理活性ペプチドからの創薬研究についてのスキル習得、プレゼンテーション、及びそれに基づく討論と解説</p> <p>第14・15回 固相合成法・コンビナトリアルケミストリーに関するスキル習得 ・固相合成法・コンビナトリアルケミストリーに関するスキル習得、プレゼンテーション、及びそれに基づく討論と解説</p>										
〔履修要件〕										
<p>医薬創成プロセス概論を受講のこと。</p>										
〔成績評価の方法・基準〕										
<p>出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。</p>										
〔教科書〕										
<p>必要に応じてプリント等を配布する。</p>										
〔参考書等〕										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Nature, Scienceをはじめとする化学・生物学分野を対象とした学術雑誌</li> <li>・「インシリコ創薬科学-ゲノム情報から創薬へ-」(京都廣川書店)</li> </ul>										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連分野の最先端の動向についても紹介します。</li> <li>・事前にtel/mail (掛谷: 内4524, hakeya@pharm.kyoto-u.ac.jp, 大野: 内4571, hohno@pharm.kyoto-u.ac.jp)</li> </ul>										

授業科目名 (英訳)		臨床研究スキル <Skill Development for Clinical Researches>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・岡村均、講師・土居雅夫		
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	実習	
〔授業の概要・目的〕										
臨床研究のために必要な、臨床医薬品の探索技術研究、臨床技術研究、個別化医療研究に必要な実践的理論に基づいた研究技術スキル及びその指導法を修得させる。臨床研究のためのスキルを習得できるように、臨床研究の基本となる薬学や医学の講義と演習を組み合わせ教育を行う。必要に応じて病院等からの非常勤講師が講義を行う。										
〔授業計画と内容〕										
<p>第1回～第7回 薬学医学領域の臨床技術の基礎(岡村均)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネットやデータベースの活用技術</li> <li>・ 医薬品動態のシミュレーションの方法</li> <li>・ 性差の医学薬学臨床技術</li> <li>・ 年齢と医薬品臨床活用技術</li> <li>・ 医薬品における個人差</li> <li>・ 医薬品の安全な投与方法技術</li> <li>・ リスク管理と臨床技術</li> </ul> <p>第8回 がんの臨床研究技術(岡村均)</p> <p>第9回 脳、血管、老化の臨床研究技術(岡村均)</p> <p>第10回 高血圧の診断・治療・予防法の確立(土居雅夫)</p> <p>第11回 バイオインフォマティクスを用いたオーファンGPCR標的リード化合物探索(土居雅夫)</p> <p>第12回 ゲノミクスを用いた臨床研究技術(土居雅夫)</p> <p>第13回 ヒトSNPs解析による個別化医療の確立(岡村均)</p> <p>第14回 生体リズムの診断・数理解析・時間薬物送達方法の確立(土居雅夫)</p> <p>第15回 総合討論(岡村均)</p>										
〔履修要件〕										
〔成績評価の方法・基準〕										
講義や実習への出席状況、講義や実験内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
必要に応じてプリントを配布する。										
〔参考書等〕										
講義や実習の内容に応じて指定する場合がある。										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
<p>自分で調べ、実験したことは、必ずよくまとめて、決められた時間内に発表できるように、よく準備しておくこと。</p> <p>オフィスアワー: 在室の時にはいつでも可。</p> <p>事前連絡方法: 電話。場所: 別館4階(岡村・土居、内線9552)</p>										

授業科目名 (英訳)		バイオインフォマティクス系研究 <Research in Bioinformatics>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・北浦和夫、化学研究所教授・金久實、 化学研究所教授・馬見塚 拓		
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	演習	
〔授業の概要・目的〕										
バイオインフォマティクス系分野において研究を実施し、修士論文を作成・発表する。										
〔授業計画と内容〕										
第1回 創薬計算化学分野に関する研究1 関連研究論文調査(北浦 和夫) 第2回 創薬計算化学分野に関する研究2 討論(北浦 和夫) 第3回 創薬計算化学分野に関する研究3 序論検討(北浦 和夫) 第4回 創薬計算化学分野に関する研究4 方法考察(北浦 和夫) 第5回 創薬計算化学分野に関する研究5 結果要約(北浦 和夫) 第6回 統合ゲノミクス分野に関する研究1 関連研究論文調査(金久 實) 第7回 統合ゲノミクス分野に関する研究2 討論(金久 實) 第8回 統合ゲノミクス分野に関する研究3 序論検討(金久 實) 第9回 統合ゲノミクス分野に関する研究4 方法考察(金久 實) 第10回 統合ゲノミクス分野に関する研究5 結果要約(金久 實) 第11回 分子設計情報分野に関する研究1 関連研究論文調査(馬見塚 拓) 第12回 分子設計情報分野に関する研究2 討論(馬見塚 拓) 第13回 分子設計情報分野に関する研究3 序論検討(馬見塚 拓) 第14回 分子設計情報分野に関する研究4 方法考察(馬見塚 拓) 第15回 分子設計情報分野に関する研究5 結果要約(馬見塚 拓)										
〔履修要件〕										
特になし										
〔成績評価の方法・基準〕										
出席状況、課題に対するレポート、さらに研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
必要に応じてプリントを配布する。										
〔参考書等〕										
演習の内容に応じて指定する場合がある。										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
オフィスアワー: 講義終了後(他の時間でも予約すれば可)。 事前連絡方法: 電話。場所: 薬学研究科総合研究棟1階システムケモセラピー(創薬計算化学)分野教授室(対応者: 北浦和夫 内線9561)、宇治キャンパス総合研究実験棟CB219 統合ゲノミクス分野教授室(対応者: 金久 實 内線17-3270)、宇治キャンパス総合研究実験棟CB324 分子設計情報分野教授室(対応者: 馬見塚 拓 内線17-3023)										



授業科目名 (英訳)		システム生物学・医薬創成系研究 <Research in Systems Biology & Drug Discovery>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・辻本豪三、准教授・大野浩章、教授・ 岡村均、教授・掛谷秀昭、准教授・平澤明、 講師・大石真也、講師・土居雅夫、准教授・ 服部明、		
配当学年	1・2回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	演習	
〔授業の概要・目的〕										
システム生物学・医薬創成系分野において、研究、セミナー、実習指導の実践を行う。										
〔授業計画と内容〕										
第1回 網羅的解析技術を用いた薬理評価の実践による創薬の前臨床分野の研究(辻本豪三・平澤明) 第2回 G蛋白質共役型受容体のゲノム機能科学に基づくリガンド探索研究(辻本豪三・平澤明) 第3回 G蛋白質共役型受容体のゲノム機能科学からの創薬応用研究(辻本豪三・平澤明) 第4回 生体における受容体機能の解析研究(平澤明・辻本豪三) 第5回 受容体蛋白質の立体構造と作用機構に関する研究(大石真也・大野浩章) 第6回 バイオインフォマティクスによる薬物-受容体の分子認識機構の解明(服部明・掛谷秀昭) 第7回 哺乳類生体リズムにおける時の生成と調律の仕組みの解明(土居雅夫・岡村均) 第8回 時間創薬研究(岡村均・土居雅夫) 第9回 哺乳類生体リズムの多層分子ネットワークシステムの作動原理の解明からの創薬研究(岡村均・土居雅夫) 第10回 多因子疾患に対する次世代化学療法の開発を指向した先端的ケミカルバイオロジー研究(掛谷秀昭・服部明) 第11回 ケモインフォマティクス、バイオインフォマティクスを活用したシステムケモセラピー研究(掛谷秀昭・服部明) 第12回 遺伝子工学的手法による有用物質生産・創製プロセスの開発(大野浩章・大石真也) 第13回 新規骨格を有する医薬品リードの分子設計・化学合成技術の開発(大野浩章・大石真也) 第14回 医薬品候補化合物の生物活性の評価系の構築と応用に関する研究(大野浩章・大石真也) 第15回 創薬リード化合物の開拓を指向した新規生理活性物質の天然物化学・天然物薬学研究(掛谷秀昭・服部明)										
〔履修要件〕										
特になし										
〔成績評価の方法・基準〕										
出席状況、演習内容をもとに課す場合がある。課題に対するレポートなどを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
必要に応じてプリントを配布する。										
〔参考書等〕										
演習の内容に応じて指定する場合がある。										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
オフィスアワー: 在室の時にはいつでも可。 事前連絡方法: 電話。場所: 別館4階(辻本・平澤 内線4523、岡村・土居、内線9552、掛谷・服部 内線4524、大野・大石 内線9268)。										

授業科目名 (英訳)		バイオインフォマティクス系コンテンツ制作 <Advanced Methods in Bioinformatics>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・北浦和夫、化学研究所教授・金久實、 化学研究所教授・馬見塚 拓		
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限		授業形態	演習	
【授業の概要・目的】										
バイオインフォマティクス系分野の修士課程においてプログラムやWebアプリケーションなどのITコンテンツを作成する。										
【授業計画と内容】										
第1～3回 創薬計算化学分野における量子化学に関するコンテンツ制作(北浦 和夫) 第4～5回 創薬計算化学分野における分子計算に関するコンテンツ制作(北浦 和夫) 第6～8回 統合ゲノミクス分野におけるデータ解析に関するコンテンツ制作(金久 實) 第9～10回 統合ゲノミクス分野におけるデータベース構築に関するコンテンツ制作(金久 實) 第11～13回 分子設計情報分野におけるデータの統計解析に関するコンテンツ制作(馬見塚 拓) 第14～15回 分子設計情報分野における機械学習に関するコンテンツ制作(馬見塚 拓)										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
出席状況、課題に対するレポート、さらに研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。										
【教科書】										
必要に応じてプリントを配布する。										
【参考書等】										
演習の内容に応じて指定する場合がある。										
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】										
オフィスアワー: 講義終了後(他の時間でも予約すれば可)。 事前連絡方法: 電話。場所: 薬学研究科総合研究棟1階システムケモセラピー(創薬計算化学)分野教授室(対応者: 北浦和夫 内線9561)、宇治キャンパス総合研究実験棟CB219 統合ゲノミクス分野教授室(対応者: 金久 實 内線17-3270)、宇治キャンパス総合研究実験棟CB324 分子設計情報分野教授室(対応者: 馬見塚 拓 内線17-3023)										

授業科目名 (英訳)	システム生物学・医薬創成系コンテンツ制作 <Advanced Methods in Systems Biology & Drug Discovery>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・辻本豪三、准教授・大野浩章、教授・ 岡村均、教授・掛谷秀昭、准教授・平澤明、 講師・大石真也、講師・土居雅夫、准教授・ 服部明、			
配当学年	1・2回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限		授業形態	演習
〔授業の概要・目的〕									
システム生物学・医薬創成系分野において、Webアプリケーションやプログラムなどのコンテンツを作成、公開する。									
〔授業計画と内容〕									
第1回 網羅的解析技術を用いた薬理評価に関するコンテンツ制作(辻本豪三) 第2回 リガンド探索研究に関するコンテンツ制作(辻本豪三) 第3回 G蛋白質共役型受容体の創薬応用に関するコンテンツ制作(辻本豪三) 第4回 受容体機能解析に関するコンテンツ制作(平澤明) 第5回 受容体蛋白質の立体構造と作用機構に関するコンテンツ制作(大石真也) 第6回 薬物-受容体の分子認識機構に関するコンテンツ制作(服部明) 第7回 哺乳類生体リズムに関するコンテンツ制作(土居雅夫) 第8回 時間創薬研究に関するコンテンツ制作(岡村均) 第9回 哺乳類生体リズムの多層分子ネットワークシステムに関するコンテンツ制作(岡村均) 第10回 化学療法の先端的ケミカルバイオロジー研究に関するコンテンツ制作(掛谷秀昭) 第11回 ケモ・バイオインフォマティクスを活用したシステムケモセラピーのコンテンツ制作(掛谷秀昭) 第12回 遺伝子工学的手法による有用物質生産に関するコンテンツ制作(大野浩章) 第13回 医薬品リードの分子設計・化学合成技術に関するコンテンツ制作(大野浩章) 第14回 医薬品候補化合物の評価系に関するコンテンツ制作(大野浩章) 第15回 新規生理活性物質の天然物化学・天然物薬学に関するコンテンツ制作(掛谷秀昭)									
〔履修要件〕									
〔成績評価の方法・基準〕									
出席状況、演習内容をもとに課す場合がある。課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
演習の内容に応じて指定する場合がある。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
オフィスアワー: 在室の時にはいつでも可。 事前連絡方法: 電話。場所: 別館4階(辻本・平澤 内線4523、岡村・土居、内線9552、掛谷・服部 内線4524、大野・大石 内線9268)。									

授業科目名 (英訳)		先端薬学研究演習 <Seminar in Pharmaceutical Sciences(Advanced Methods in Pharmaceutical Sciences)>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		薬学研究科教員	
配当学年	1・2・3回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限		授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
<p>医薬品の基礎研究と、最近の薬学及び関連領域の基礎理論と研究成果について紹介し、履修者の研究内容に基づいて薬学研究的将来を展望し研究計画を立案する能力を涵養する。</p>									
【授業計画と内容】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>○履修者の研究内容に直接関わる最近の研究動向の紹介と研究の流れにおける自己の研究の位置付けを通して、研究の意義を論ずる。</li> <li>○履修者の研究内容の周辺における最近の研究の動向の紹介とその社会的関連を論ずる。</li> <li>○薬学研究における技術革新と医薬品開発、臨床応用との関係を国際的視点から紹介する。</li> </ul>									
【履修要件】									
なし									
【成績評価の方法・基準】									
演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。									
【教科書】									
適宜必要に応じてプリントを配布する。									
【参考書等】									
講義内容に応じて指定する場合がある。									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
コメント: 履修に関しては各指導教員の指示に従うこと。									

授業科目名 (英訳)		先端創薬学特論 <Advanced Physical and Organic Chemistry>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		創薬科学専攻教員 他	
配当学年	1・2・3回生	単位数	2	開講期	前期・後期	曜時限		授業形態	講義
〔授業の概要・目的〕									
<p>博士前期課程において履修した先端研究特論、研究導入概論等を基礎として、薬品創製化学分野の研究内容(有機化学、合成化学、金属化学、触媒化学、天然物化学、生薬学など)に関するより高度で専門的な最新のトピックスを紹介し、専門最先端研究への橋渡しをする。また、自学自習を促進するため、履修者が関連する研究内容について文献調査し、その内容を講義の中で紹介し全員で討議する。本講義では薬学教員だけでなく、関連の研究分野から著名な研究者に講師として講義に参加してもらう。さらに、国際性と英語でのコミュニケーション能力を養うために、外国人講師による講演会や外国人講師への研究プレゼンテーション・ディカッションも不定期に開催する予定である。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>第1回 反応制御因子に関する講義  第2回 立体化学制御に関する講義  第3回 不斉合成反応に関する講義  第4回 触媒反応に関する講義  第5回 逆合成解析に関する講義  第6回 全合成研究に関する講義  第7回 ペプチド化学に関する講義  第8回 医薬品化学に関する講義  第9回 天然物化学に関する講義  第10回 ケミカルバイオロジーに関する講義  第11回 生合成解析・生薬学に関する講義  第12回 有機合成反応に関する発表討論会  第13回 全合成研究に関する発表討論会  第14回 天然物化学に関する発表討論会  第15回 総合発表討論会</p>									
〔履修要件〕									
<p>博士前期課程において創薬科学特論I～IVを履修していることが望ましい</p>									
〔成績評価の方法・基準〕									
<p>講義への出席状況、講義中に課すレポートなどを総合的に評価する。</p>									
〔教科書〕									
<p>適宜必要に応じてプリントを配布する。</p>									
〔参考書等〕									
<p>講義内容に応じて指定する場合がある。</p>									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									

授業科目名 〈英訳〉		生体機能薬物特論 〈Advanced Life Science〉				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		生命薬科学専攻教員他		
配当学年	1・2・3回生	単位数	2	開講期	前期・後期	曜時限		授業形態	講義	
〔授業の概要・目的〕										
生命薬科学専攻が提供する生命薬科学概論、生命薬科学特論等を履修し、その講義内容及び履修者の研究内容に基づき討議する。										
〔授業計画と内容〕										
<ul style="list-style-type: none"> <li>○生命薬科学概論に基づき講義と討論</li> <li>○生命薬科学特論Ⅰに基づき講義と討論</li> <li>○生命薬科学特論Ⅱに基づき講義と討論</li> </ul>										
〔履修要件〕										
〔成績評価の方法・基準〕										
講義への出席状況、講義中に課すレポートなどを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
適宜必要に応じてプリントを配布する。										
〔参考書等〕										
講義内容に応じて指定する場合がある。										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										

授業科目名 (英訳)	病態・機能制御学特論 <Advanced Patho-physiology and Biomedicine>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	医療薬科学専攻教員他			
配当学年		単位数	2	開講期	前期・後期	曜時限		授業形態	講義
【授業の概要・目的】									
医療薬科学専攻が提供する先端研究特論、概論等を履修し、その講義内容及び履修者の研究内容に基づき討議する。									
【授業計画と内容】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>○医療薬科学概論に基づく講義と討論</li> <li>○医療薬科学特論Ⅰに基づく講義と討論</li> <li>○医療薬科学特論Ⅱに基づく講義と討論</li> </ul>									
【履修要件】									
なし									
【成績評価の方法・基準】									
講義や討論への出席状況、講義や討論内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
【教科書】									
なし									
【参考書等】									
なし									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
コメント:履修に関しては各指導教員の指示に従うこと。									

授業科目名 (英訳)		医薬創成研究プロジェクト特論 <Advanced Drug Discovery & Development I>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・掛谷秀昭、准教授・服部明、講師・大石真也、助教・西村慎一		
配当学年	1・2・3回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金1	授業形態	講義	
〔授業の概要・目的〕										
<p>医薬品創成プロジェクトにおける有機化学、合成化学、医薬品化学、天然物化学、生薬学などの有機化学系の研究分野の最先端に関して、各分野の教員や、製薬企業等からの非常勤講師が講義を行う。</p> <p>医薬創成情報科学専攻後期博士課程において、化学系薬学を学ぶ学生に対する先端講義。癌、エイズ、神経変性疾患、免疫疾患などの難治性疾患に対する医薬品開発の最先端研究実例を学び、医薬品創成に必要な応用的基盤の確立を目指す。</p>										
〔授業計画と内容〕										
<p>第1～3回 有機化合物の最新の反応と合成  第4～6回 天然物化学・漢方薬・生薬に関する最新の話  第7～9回 創薬研究における最新のケミカルバイオロジー研究  第10～11回 最新のキラルテクノロジー・グリーンケミストリー  第12～13回 創薬研究における最新のプロセス化学  第14～15回 製薬企業における医薬創成プロジェクト研究の現状と展望</p>										
〔履修要件〕										
特になし										
〔成績評価の方法・基準〕										
出席状況、授業ノート、講義中に課すレポートなどを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
必要に応じてプリント等を配布する。										
〔参考書等〕										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Nature, Science, J. Am. Chem. Soc.をはじめとする化学・生物学分野を対象とした学術雑誌</li> <li>・「インシリコ創薬科学-ゲノム情報から創薬へ-」(京都廣川書店)</li> </ul>										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連分野の最先端の動向についても紹介します。</li> <li>・事前にtel/mail(掛谷; 内4524, hkakeya@pharm.kyoto-u.ac.jp, 大石; 内9268, soishi@pharm.kyoto-u.ac.jp)</li> </ul>										



授業科目名 (英訳)	医薬創成ITビジネス特論 <Advanced Drug Discovery & Development II>					担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	化学研究所教授・馬見塚 拓、化学研究所 助教・瀧川一学、化学研究所助教・志賀元 紀			
配当学年	1・2・3回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火4	授業形態	講義	
【授業の概要・目的】										
<p>本授業は、医薬ITビジネスに関連する情報技術全般に渡る講義である。従って、情報技術の各分野を医学・薬学と関連付けつつ概観する。必要に応じて専門分野の非常勤講師が授業をおこなう。全体に関して計算機を用いた演習をも行い、講義で得た知識を体得する。これらを通じて、医薬ビジネスに関係する情報技術、特にバイオインフォマティクスおよびケモインフォマティクスに関連する必要な情報技術の習得と医薬分野での応用への理解を目指す。</p>										
【授業計画と内容】										
<p>授業計画  第 1-3回 情報技術基礎  第 4-6回 統計科学に関連する医学・薬学での研究概要  第 7-9回 知識科学に関連する医学・薬学での研究概要  第10-12回 知的財産・ビジネスモデルに関連する医学・薬学での研究概要  第13-15回 計算機演習によるITビジネスの医学・薬学での研究概要の理解</p>										
【履修要件】										
なし										
【成績評価の方法・基準】										
レポート100%。講義毎に4ページ程度のレポートを提出。										
【教科書】										
必要に応じてプリントを配布する。										
【参考書等】										
講義内容に応じて指定する場合がある。										
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】										
<p>オフィスアワー: 医薬創成ITビジネス特論の講義終了後(他の時間でも予約すれば可)  場所: 化学研究所総合研究実験棟3階CB324 (対応者: 馬見塚 拓 内線宇治3023)</p>										

授業科目名 (英訳)		プロジェクトマネジメント特論 <Advanced Drug Discovery & Development III>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・辻本豪三	
配当学年	1・2・3回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	講義
〔授業の概要・目的〕									
<p>戦略的な技術開発や研究において期待した成果を得るには、プロジェクト・マネジメントが重要な鍵となる。本講では、プロジェクト・マネジメントとは何かについて、その基本的考え方と理論的枠組み、実施、成果のまとめ等や社会への発信について理解することを目的とする。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>本講では具体的な研究例に基づく課題を提出してそれを事例とする質疑応答を中心とする。</p> <p>第1回 大学院における薬学の研究と教育の現状  第2回 大学院における薬学の研究と教育の将来像  第3回 ゲノム創薬科学と薬理ゲノミクスの概要  第4回 ゲノム創薬科学と薬理ゲノミクスの詳細解説  第5回 ゲノム創薬科学とケモゲノミクスの概要  第6回 ゲノム創薬科学とケモゲノミクスの詳細解説  第7回 ゲノム創薬科学とテーラーメイド医療の概要  第8回 ゲノム創薬科学とテーラーメイド医療の詳細解説  第9回 臨床研究の現状の概要  第10回 臨床研究の現状の詳細解説  第11回 医療現場におけるトピック、問題点の概要  第12回 医療現場におけるトピック、問題点の詳細解説  第13回 医薬品開発過程におけるゲノム創薬その1  第14回 医薬品開発過程におけるゲノム創薬その2  第15回 総合討論</p>									
〔履修要件〕									
なし									
〔成績評価の方法・基準〕									
講義への出席状況、講義内容をもとに課す場合がある課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
〔教科書〕									
必要に応じてプリントを配布する。									
〔参考書等〕									
講義内容に応じて指定する場合がある。									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕									
<p>オフィスアワー:プロジェクトマネジメント特論の講義終了後(他の時間でも予約すれば可)  場所:薬学研究科総合研究棟3階ゲノム創薬科学分野辻本教授室 (対応者:辻本豪三 内線4523)</p>									

授業科目名 (英訳)		バイオインフォティクス系研究 <Research in Bioinformatics>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・北浦和夫、化学研究所教授・金久實、 化学研究所教授・馬見塚 拓		
配当学年	1・2・3回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	演習	
〔授業の概要・目的〕										
バイオインフォマティクス系分野において研究を実施し、博士論文を作成・発表する。										
〔授業計画と内容〕										
第1回 創薬計算化学分野に関する研究1 関連研究論文調査(北浦 和夫) 第2回 創薬計算化学分野に関する研究2 討論(北浦 和夫) 第3回 創薬計算化学分野に関する研究3 方法構築(北浦 和夫) 第4回 創薬計算化学分野に関する研究4 結果考察(北浦 和夫) 第5回 創薬計算化学分野に関する研究5 論文演習(北浦 和夫) 第6回 統合ゲノミクス分野に関する研究1 関連研究論文調査(金久 實) 第7回 統合ゲノミクス分野に関する研究2 討論(金久 實) 第8回 統合ゲノミクス分野に関する研究3 方法構築(金久 實) 第9回 統合ゲノミクス分野に関する研究4 結果考察(金久 實) 第10回 統合ゲノミクス分野に関する研究5 論文演習(金久 實) 第11回 分子設計情報分野に関する研究1 関連研究論文調査(馬見塚 拓) 第12回 分子設計情報分野に関する研究2 討論(馬見塚 拓) 第13回 分子設計情報分野に関する研究3 方法構築(馬見塚 拓) 第14回 分子設計情報分野に関する研究4 結果考察(馬見塚 拓) 第15回 分子設計情報分野に関する研究5 論文演習(馬見塚 拓)										
〔履修要件〕										
特になし										
〔成績評価の方法・基準〕										
出席状況、課題に対するレポート、さらに研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。										
必要に応じてプリントを配布する。										
〔参考書等〕										
演習の内容に応じて指定する場合がある。										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
オフィスアワー: 講義終了後(他の時間でも予約すれば可)。 事前連絡方法: 電話。場所: 薬学研究科総合研究棟1階システムケモセラピー(創薬計算化学)分野教授室(対応者: 北浦和夫 内線9561)、宇治キャンパス総合研究実験棟CB219 統合ゲノミクス分野教授室(対応者: 金久 實 内線17-3270)、宇治キャンパス総合研究実験棟CB324 分子設計情報分野教授室(対応者: 馬見塚 拓 内線17-3023)										

授業科目名 (英訳)		システム生物学・医薬創成系研究 <Research in Systems Biology & Drug Discovery>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究所所属)		教授・辻本豪三、准教授・大野浩章、教授・ 岡村均、教授・掛谷秀昭		
配当学年	1・2・3回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限		授業形態	演習	
〔授業の概要・目的〕										
システム生物学・医薬創成系分野において研究を実施し博士研究論文を発表する										
〔授業計画と内容〕										
第1回 薬理ゲノミクス分野の領域に関する研究1 序論 (辻本豪三) 第2回 薬理ゲノミクス分野の領域に関する研究2 方法 (辻本豪三) 第3回 薬理ゲノミクス分野の領域に関する研究3 結果 (辻本豪三) 第4回 薬理ゲノミクス分野の領域に関する研究4 討論と最近の研究論文の紹介 (辻本豪三) 第5回 システムバイオロジー分野の領域に関する研究1 序論 (岡村均) 第6回 システムバイオロジー分野の領域に関する研究2 方法 (岡村均) 第7回 システムバイオロジー分野の領域に関する研究3 結果 (岡村均) 第8回 システムバイオロジー分野の領域に関する研究4 討論と最近の研究論文の紹介 (岡村均) 第9回 システムケモセラピー分野の領域に関する研究1 序論 (掛谷秀昭) 第10回 システムケモセラピー分野の領域に関する研究2 方法 (掛谷秀昭) 第11回 システムケモセラピー分野の領域に関する研究3 結果 (掛谷秀昭) 第12回 システムケモセラピー分野の領域に関する研究4 討論と最近の研究論文の紹介 (掛谷秀昭) 第13回 ケモゲノミクス分野の領域に関する研究1 序論 (大野浩章) 第14回 ケモゲノミクス分野の領域に関する研究2 方法 (大野浩章) 第15回 ケモゲノミクス分野の領域に関する研究3 結果、討論と最近の研究論文の紹介 (大野浩章)										
〔履修要件〕										
〔成績評価の方法・基準〕										
出席状況、演習内容をもとに課す場合がある。課題に対するレポートなどを総合的に評価する。										
〔教科書〕										
必要に応じてプリントを配布する。										
〔参考書等〕										
演習の内容に応じて指定する場合がある。										
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕										
オフィスアワー: 在室の時にはいつでも可。 事前連絡方法: 電話。場所: 別館4階(辻本 内線4523、岡村 内線9552、掛谷 内線4524、大野 内線9268)。										

授業科目名 (英訳)		バイオインフォティクス系コンテンツ制作 <Advanced Methods in Bioinformatics>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)		教授・北浦和夫、化学研究所教授・金久實、 化学研究所教授・馬見塚 拓		
配当学年	1・2・3回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限		授業形態	演習	
【授業の概要・目的】										
バイオインフォマティクス系分野の博士課程においてプログラムやWebアプリケーションなどのITコンテンツを作成する。										
【授業計画と内容】										
第1回 創薬計算化学分野における量子化学に関するコンテンツ制作(北浦 和夫) 第2～3回 創薬計算化学分野における分子計算に関するコンテンツ制作(北浦 和夫) 第4～5回 創薬計算化学分野におけるシミュレーションに関するコンテンツ制作(北浦 和夫) 第6回 統合ゲノミクス分野におけるデータ解析に関するコンテンツ制作(金久 實) 第7～8回 統合ゲノミクス分野におけるデータベース構築に関するコンテンツ制作(金久 實) 第9～10回 統合ゲノミクス分野におけるデータベースマネージメントに関するコンテンツ制作(金久 實) 第11回 分子設計情報分野におけるデータの統計解析に関するコンテンツ制作(馬見塚 拓) 第12～13回 分子設計情報分野における機械学習に関するコンテンツ制作(馬見塚 拓) 第14～15回 分子設計情報分野におけるデータマイニングに関するコンテンツ制作(馬見塚 拓)										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
出席状況、課題に対するレポート、さらに研究に取り組む姿勢や態度などを総合的に評価する。										
【教科書】										
必要に応じてプリントを配布する。										
【参考書等】										
演習の内容に応じて指定する場合がある。										
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】										
オフィスアワー: 講義終了後(他の時間でも予約すれば可)。 事前連絡方法: 電話。場所: 薬学研究科総合研究棟1階システムケモセラピー(創薬計算化学)分野教授室(対応者: 北浦和夫 内線9561)、宇治キャンパス総合研究実験棟CB219 統合ゲノミクス分野教授室(対応者: 金久 實 内線17-3270)、宇治キャンパス総合研究実験棟CB324 分子設計情報分野教授室(対応者: 馬見塚 拓 内線17-3023)										

授業科目名 (英訳)	システム生物学・医薬創成系コンテンツ制作 <Advanced Methods in Systems Biology & Drug Discovery>				担当者氏名 (所属名がない場合は 薬学研究科所属)	教授・辻本豪三、准教授・大野浩章、教授・ 岡村均、教授・掛谷秀昭			
配当学年	1・2・3回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限		授業形態	演習
【授業の概要・目的】									
システム生物学・医薬創成系分野において、Webアプリケーションやプログラムなどのコンテンツ を作成、公開する。									
【授業計画と内容】									
第1回―第4回 薬理ゲノミクス分野の研究領域に関するコンテンツ制作 (辻本豪三) 第5回―第8回 システムバイオロジー分野の研究領域に関するコンテンツ制作 (岡村均) 第9回―第12回 システムケモセラピー分野の研究領域に関するコンテンツ制作 (掛谷秀昭) 第13回―第15回 ケモゲノミクス分野の研究領域に関するコンテンツ制作 (大野浩章)									
【履修要件】									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、演習内容をもとに課す場合がある。課題に対するレポートなどを総合的に評価する。									
【教科書】									
必要に応じてプリントを配布する。									
【参考書等】									
演習の内容に応じて指定する場合がある。									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー: 在室の時にはいつでも可。 事前連絡方法: 電話。場所: 別館4階(辻本 内線4523、岡村 内線9552、掛谷 内線4524、大野 内線9268)。									